

幼の兒の教育

號二十第 號月二十 卷六十三第



東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

廣島文理科 應用心理研究會編
大學 內

應用心理研究特輯號

應用心理學論文集

最新刊 菊判洋裝 全一冊紙數貳百八十頁
定價壹圓弍錢 送料 十四錢

心理學が醫學、文學、思想、教育、社會問題等、各方面に有する關聯の深きは驚くべきもので、最近のそれは學窓より街頭に出て直接生活に必須のものとして極めて實際的問題となつて來た。雜誌「應用心理研究」は之等の必要に基き一般社大家が心血を注がれたる研究の發表機關として、他面一般社會の心理學應用の理解を深からしめんが爲創刊以來既に卷を重ねて來た。今現代斯界の大家の大研究論文八十篇を特輯増大號として公にする事の出來たのは小館の最も誇とする所である。

應用心理研究 現代應用心理學概観
定價一圓廿錢 送料 十四錢

内容目次

勞働による眼調節機能の變化	高橋 春藏
性格と時間意識	牛島 義保
性教育兒童に就て	中田 義雄
未婚統制期に就て	山崎 次郎
外國文學に見えたる編成に就て	小日向 定次
産業心理學研究の近況	上野 義雄
我國職業指導の現狀	鈴木 木
最近犯罪心理學的情勢	石井 俊
新體育運動の各種的側面	松井 三雄
検査の妥當と因子的分析	久松 義雄
我國應用心理學書目録	古賀 良三
	岸本 物吉

發兌 振替東京三八四二七
中文館書店

廣島文理科 文學博士 久保良英著
大學教授

形態心理學

菊判洋裝全一冊・定價三圓五十錢・送料廿一錢
形態心理學の出現と共に心理學界は一大センセーションを捲き起して居る。彼等はグントやゼームスの如き巨匠に依りて建設された心理學の大殿堂を根底から覆さんと試み、在來の心理學とは全く異つた見地から精神現象を見直さんと企て、居る。今回形態心理學の紹介に逸早く努力しつゝありし久保博士に依り初めて本書が公にせられた。

精神分析學

菊判洋裝全一冊・定價四圓・送料二十一錢
心理學の分野に於ても我等に最も興味深きものは精神分析學である。のみならずそのれが應用的方面に於ては殆んど無盡藏と謂ふべく少くも形而上の諸科學の甚大さは特筆すべきもので、特殊に最近斯界が教育界に瀰らした影響の甚大さは他にして殆んど不可能とせられて居る。一般心理學徒は勿論學校教育家他總ての文化人の必讀を乞ふ。

實驗心理學精義

◆簡單篇 定價六圓八十錢 送料二十七錢
◆複雜篇 定價六圓
本書は實驗心理學の開拓した所又はせんとする所を弘く各種の行動の項目の下にその研究の方法及と結果とを詳述した。特に編纂の方法は博士の體験上斯學者の最も興味を失はぬ機動的量的兩者交互に叙述せられた。此の周到なる用意は如實に本書の上に表現す。如此本書は悉切丁寧に現代の實驗心理學の新研究を擧て一切發表した。アツプツデーのものもこのたる事は勿論特に兒童の心理實驗に力を注いだ。

保育育讀本 育のての心

最新刊

東京女子高等師範
附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生著

身も心も打ち込んだ子供の導き

明朗清新なる保育の眞諦!!

倉橋先生の尊い經驗の上に立つ保育讀本。而も學理を實踐に遷し、實踐から學理を生んで、たゆみなき精進に、寧日もなき先生が、生み出されたこの書は、我が國幼兒教育界の非常なる幸福である。而も文脈靜澄にして盡くるなき、うるはしき文體には、子供を導き教へようとする人々の胸に、限りなき樂しさと盡くるなき味ひとを感じさせずにはおかない。蓋し不朽の生命を有つ名著として、子供を持つ人々の心に、永遠の至幸を齎らさしむるであらう。

——四六大判四〇〇頁・アート刷名録十二巻入り美裝・價一・五〇——

内容の一斑

子ども達の中にあつて
子どもの心のはた
佛心と童心
人間教育
小さき太陽
にじみ出る眞實性
まめやかさ
ころもち
ひきつけられて
飛びついて來た子ども

子供達を送る日

詫びる心
自ら責める心
教育される教育者
創意なき教育
自らを新たにせる教育
感情の清算
この萌芽に對して
春風秋雨
羨しい田舎の子供の夏

飢えと寒さの子等

母ものがたり
母の誕生・母の成長
あまい母・からい母
はいはい子問題
子どもの辭しらべ
子どもの心
いろいろの子供
子どもの相手
名畫の子ども

東京・神田・河原臺

刀江書院

電話 神田三九八 一七二
東京 七三三 一八番

新刊

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集

菊版三五〇頁

定價金壹圓五拾錢

郵稅

東京市内 金六錢

地方・北海道

臺灣・樺太 金拾錢

朝鮮・滿洲

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。就いてはその中に用ゐてあります談話につき、便宜一まごめにした書物がないかとの御要求が澤山ありますので、此の談話集を編纂發行致しました。右保育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものご信じます。實際御使用のために定價も普通の市價の標準を離れて、出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸いです。

三版

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際

定價金壹圓

送料金四錢

一保育案の實際は幼稚園必須の資料

一東京女子高等師範學校附屬幼稚園現行の保育の實際は各幼稚園好箇の參考

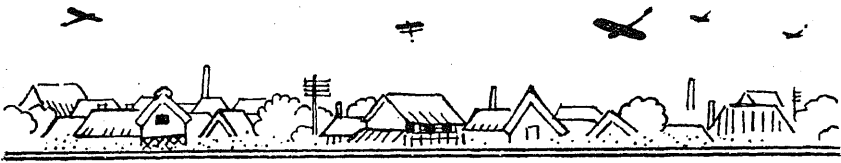
一待望の本書を全國幼稚園保姆諸君に勸む

發行所 日本幼稚園協會

東京市小石川區大塚町卅五番地
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

振替東京一七二六六番

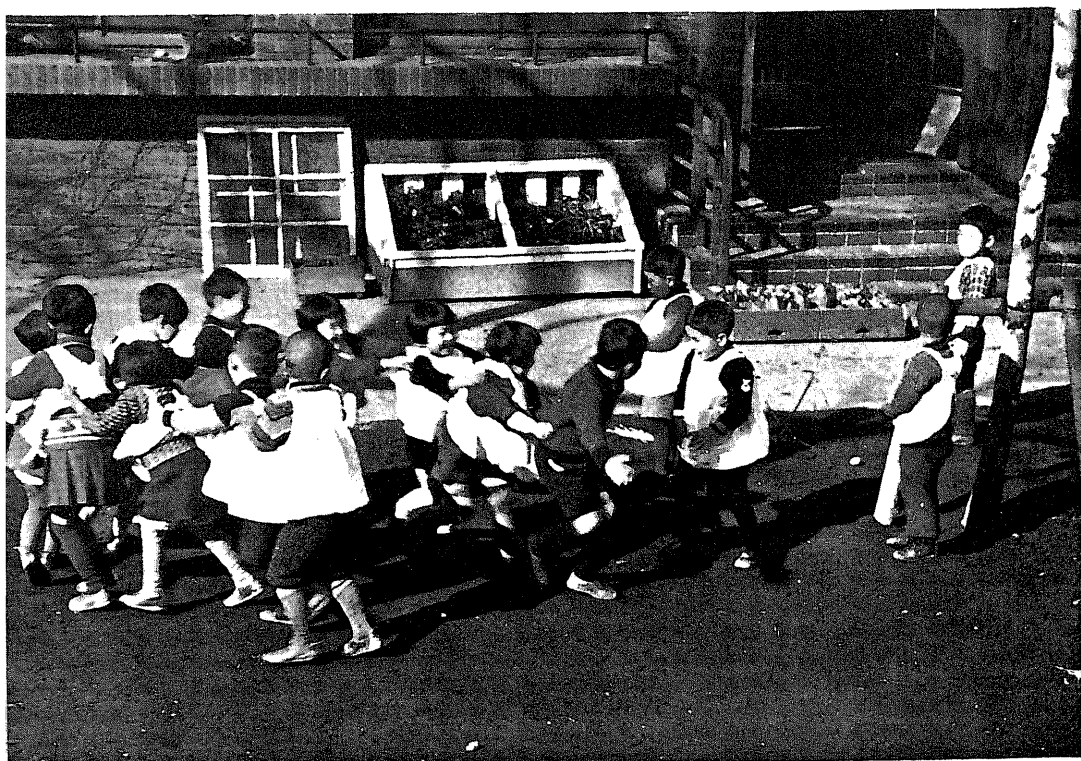
○定價及郵稅を添へ本會宛直接御註文下さい。



號二十第 育 教 の 兒 幼 卷六十三第

—(次 目)—

口 繪	倉 橋 惣 三(一)
卷 頭(歲の暮)	樋 口 長 市(二)
聾啞幼稚園	高 市 慶 雄(三)
歐米幼兒教育視察記(四)	曾 根 保(四五)
英詩のリズム	牛 島 義 友(三)
兒童心理學文獻抄(二三)	三 津 迪(元)
子どもを歌つた大隈言道	曾 根 翠(英)
對仲直り	會 橋 惣 三(四)
系統的保育案の實際解説(九)	
生活訓練	會 橋 惣 三
誘導保育	菊 池 ぶ じ の
唱歌遊戲	村 上 露 子
談 話	新 庄 よ し こ
觀 察	小 島 光 子
手 技	及 川 ふ み
總 目 錄	



る と 子 ろ と 子

(園 稚 幼 屬 附)

幼 児 の 教 育

昭 和 十 一 年 十 二 月

歳 の 暮

あゝ今年も暮れる……こ思ふのは、自分の今年である。教育者もそう思ふが、同時に思ふのは、子ぎも達の今年が暮れるこころである。その子のために大切な此の一年を預つて、それをさう始めさせて、さう終らせたか。それよりも尙ほ氣にかゝるのは、その一年を、さう経過させたか。

自分の今年のことなんか、考へて見るまもないのが、教育者の歳の暮である。

今年も亦、相すまないこころで暮れてゆくのか。

(倉 橋 惣 三)

聾啞幼稚園

東京聾啞學校長

樋口長市

聾啞兒にも幼稚園があり、學齡期前の幼兒を收容して、家庭に代つて保育を施して居る。その名稱は、必ずしも幼稚園と掲げるには限らぬ。英米に於ては託兒學校と掲げ、我國に於ては聾啞學校豫科と掲げて居る。がその保育内容は、少くとも幼稚園と同種類のものである。それ故こゝには、これを聾啞幼稚園と汎稱したのである。而してこの幼稚園と普通の幼稚園との異點は、言語を教へ込むを以て主なる事業と爲すまいふ點に存する。是れ正常の幼兒にあつては、小學校入學前に既に三千以上の語彙を、家庭並に社會に於て自然に收得して居るに反して、聾啞兒は家庭及び社會に於て、全く一語だも收得し得ないが故に、家庭に代つて、特にこれを教育する必要があるのである。是に我國に於ては幼稚園といはずして、豫科と稱する所以が存するのである。言語が自由に使用出來ない所からして、この幼稚園の保育科目には、唱歌科もなく、お話科もない。否お話科は言語教授であり、遊戯科も亦言語を中心として授けられる。唯手技科のみは、言語を要するこゝ少いが故に、幼兒の自由活動に委し、その外觀が一見普通の幼稚園に類似するのみである。且つまた言語が通じない所からして、一教室に於て一保姆の擔當する兒數も亦、普通の幼稚園よりは遙かに少數である。米國に於ては五人ぐらゐを理想として居るが、我國に於ては八人以上を一保姆の擔當として居る。これ亦普通の幼稚園と異なる所である。

聾啞兒ミ一般に概稱するが、其種類は決して一ではない。聾啞幼稚園に於ては、保育の傍これらの種類を鑑別し、やがて聾啞學校初等部尋常小學校類似の學校に進ましめる際に、各種類によつて學級を別異にし、それら適當な教育を受けしめるやう準備するを以て一の任務とする。尤もこの鑑別は、機械に訴へて決定することもあるが、何分にも幼弱なしかも言語のない兒童のこころで、機械によつて検出した所が、果して信憑出来るや否や甚だ疑なき能はずである。それ故修業年限二年または三年の間に於ては、保姆の觀察經驗によつて大凡の目星をつけるのみで、適確な鑑定は、初等部に進み、兒童の稍々長じた後に行ふが普通である。従つて聾啞學校に於ては、豫科に於ても本科に於ても、學級の編制變へが頻繁である。

聾啞兒の種類が一でないことは、専ら聽力の等でない點から言葉を立てたのであるが、その最も數の多いのは、(一)生れつき聽力を全失して居る所謂全聾であり、次が(二)生後暫らくは聽力を保有し、話聲を聞きまた幼な言葉を弄した経験を有するが、疾病の爲聽力を喪失し、同時に幼な言葉も使用しない所から漸次に忘却して、終に生來の全聾と同種類の者に墮し去つたものである。この二種類の聾兒の多いことは、統計の上からもこれを立證することが出来る。乃ち余が校の開校明治十三年以來今年までに入學を願ひ出でた聾啞兒千六百名の統計によれば、生來の聾啞なるが四十五パーセント、生後聾啞となつたのが四十五パーセント(他のパーセントは兩者の何れに屬するか不明である)、而して生後聾啞となつた者の年齢を調べて見れば、一歳から三歳までなるが最も多く、四歳以上なるは俄かに僅少な傾向にある。凡そこの比率は、全國聾啞學校兒童一萬五千人について調査した所と、大なる差異がない。これらによつて見れば、生來の聾が最も多く、それに次ぐのが生後聾となつたものであるといふ現實の事實が、裏書きせられ得るのである。

(三)しかし生後風に失官したものの内には、全然言語を缺如するものは稱し難く、幼児の日常生活に最も用の多い幼な言葉例へば「オッバイ」、「ウマウマ」、「イヤイヤ」等を保持して居るも往々にある。これは恐らく慈母に添乳せられる度毎に、一日に何回もなく聞かせられ言はせられ、従つて最も鞏固に印象して居る言語であるからのことであらう。嬰兒時代にはこの他にも、尙數々の幼な言葉が繰られた筈であるが、罹病失官のこもに忘却して、その影も形も留めないが普通である。

(四)また幼児期に至つて失官したものの内には、より多くの言語を保持して居るもある。が、それを使用する機會が少い。假令使用しても何らに聽えない爲矯正することが出来ず爲に年月を経るに従つて音聲が次第に變調して、聞き苦しい言葉になるが多い。(五)生來または生後失官したものの内には、多少聽力を残存し、兩耳または一耳の傍で大聲に發音すれば、聞き取り得る者もある。これを普通に殘聽者または難聽者といふ。されど同じく殘聽者ながらも、家庭その他に於て利用せられない爲、聽力は耳底に眠つて居り、幼稚園入園後検査によつてこれを發見し利用しようとしても、單なる音として聽き取らせ得ても、言葉としては聽き取らせ難いものがある。(六)生來または生後の疾患の爲、言語の機能を失ひ、聽覺のみは保有して他人の言語を聞き分け得ても、自らの意志を表現するここの出来ないものもある。通常聽啞といはれて居るがこれである。(七)以上の種類の何れかに屬しながら、智能の著しく低い、即ち聾啞にして兼て低能なるものもある。しかも聾啞兒中にこの種の擧數の多きこは、普通の幼兒間に於ける比ではない。こはまた生後失官の原因から見ても、肯かれる事柄である。乃ち前述の生後失官者一歳乃至三歳の者について、その失官原因を尋ねて見るに、最も多いのが腦膜炎、次が腦打撲、次が中耳炎、次が腦病(恐らく腦膜炎なるものならん)である。これらの病原は、單に聽覺または言語の中樞を冒すのみで、叡智の中樞は冒し得ないものは、何人が言ひ得よう。

これら多種の聾啞兒が家庭にある間の状況は如何にいふに、言語としては唯泣く笑ふ呼びかけるの三つの叫び聲の外には、聲といふものを出さぬが比々皆然りである。しかもこれら叫びが、普通の嬰幼兒よりも遙かに多い。これ彼はこの方便以外に、その意志發表の途を有せぬからのこみである。而して母の普通の交際は所謂異心傳心で、互にその要求を満たしあひ、何等不自由のなき様、誠に一驚に値するものがある。勿論成長するに従つて、兩者間の特約に成る身振手真似を以て、思想交換の方便とするは一般の傾向ではあるが、この方便は、他の人々との間には全く用をなさぬ所からして、彼は自然に家庭並に社會に於て、寂涼たる生活を餘儀なくせられて居る。即ち兄弟も近隣の子供も、意志が通じ合はない所からして、自然に離れて行き、彼は一人ポッチに置き去られる。でなければ母の腰に纏ひつき厄介視せられて居る。斯くて彼は精神活動も鈍く、嬰幼兒に最も旺盛な發表本能は自然に萎縮して、全體として活動性の乏しい、環境から孤立した、身心發達の後れた一存在として、犖々乎として呼吸して居るのみである。

然るにこれを聾啞幼稚園に收容すれば、同類のしかも身心發達の程度の類似した伴侶を得る所からして、心身の活動は俄かに増大し、嬉々として遊戯して止まない。また發表本能の擡頭によつて、身振手真似を以て朋友に話しかけ、俄かに社交人化する。而してこの身振手真似には、彼の創造になつたものもあり、或は家庭に於ける母との交際語であつたものもあるが、これを使用して友を誘ふ際、最初こそ恠訝な顔付を以て迎へられる、再三再四試行して意味が推量せられるに至れば、破顔一笑「了解した」といふが如き顔付を以て迎へられ、こゝに兩人間に約束的の手話が成立する。而もこれが漸次交友間に傳播すれば、終には聾啞社會の通語となり、正常なる言語教授の妨害となるに至る。幼稚園の方針としては、彼等の發表動悸を強盛にすると同時に言語を教へ、それによつて彼等間のみならず、正常者との間の交際語たらしめよう。彼等の間に醸成せられる手話は、正常の言語を以て漸次置き換へしめようとするのであるが、正常の言語の收得は

遅く、手話の取得は速やかな爲に、聾啞幼稚園は恰も手話を以て保育して居るかの如き觀を呈し、保姆をして聾聵落膽せしめる事が多い。

四

聾啞幼稚園に於ては、言語を教授せるを以て主要な事業となすこと、前段に述べた所の如くであるが、その教授がまた普通の幼稚園と異なる。

入園した幼児には、先づ保姆の脣竝に顔面筋の位置運動を觀察せしめ、その意味を推知せしめる。これを讀脣と(又讀顔又讀話とも)いふ。例へば保姆が「メ」を言つて自の眼を指せば、幼児は保姆の脣の動きと「メ」を聯合して、「脣が彼の様」に動けば、之れを意味するのである。「メ」を推知し、「ミ」を言つて自らの耳を撮めば、幼児は同じく脣の動きと「メ」を聯合し、後に至つて保姆が「メ」をいへば幼児は自らの眼に指を觸れ、「ミ」をいへば耳を撮むに至るのである。

斯くて「メ」、「ミ」、「ババ」、「ママ」の如き脣の音、換言すれば外から觀察し易い音から始めて、漸次口の内部の發音器官によつて起される音竝に語に及ぼし、半年の後には、「お立ちなさい」、「おすわりなさい」、「跳びなさい」、「お出でなさい」、「お歸りなさい」等の教室語を讀脣し得るに至らしめて、次の事業たる發音し言語を操つる仕事に漸次移行するのである。がこの讀脣が中々の難事業で、思ふやうに言ふやうに行かぬので、泣かせられるが保姆の毎日の行事を言つても過言でない。彼等は保姆の言ふことを聞き得ない所から、自由に任意に行動して、少しも落ちつかない。僅かに七八人の數をいへ、管理が殆んど出来ぬ。漸くに落ち著かして保姆の脣に注視せしめ得たかと思へば、彼等は唯保姆の動作を模して眼を指したり耳を撮んだりするのみで、脣の運動と聯合せしめない。……それ故毎日の仕事は、磧の河原の石積み遊びの如く、片端から崩れて、その工程の片鱗でも留めない。加ふるに彼等は口言ふ能はざる所よりして、隣席の朋友との

歪み合ひに、口論は脱きにして直ちに直接行動に出で、泣く、床板を踏み鳴らす、爲に授業は總崩れになり終るが普通で、普通の幼稚園には見られない現象である。

發音發語(言葉を操つる意味)は、讀唇によつて授けた所に大體雁行する。即ち五十音圖上のバ行マ行バ行等の唇音の、外見上見易い音を模倣によつて發音せしめるより始める。幼兒は保姆の唇その他發音器の動きを模倣するは言ふものの、唯目に見える限りを模倣するのみで、聲帯の振動を模倣するこゝが出来ぬ。従つて池中の鯉の如く、徒に口をバクバクせしめるのみで、聲を發しない。乃ち保姆は幼兒の手を取つて己の咽喉部に當て、聲帯の振動を觸知せしめて後、幼兒にも亦同一の振動を觸知するやう、自らの手を自らの咽喉部に當て、聲帯を振動せしめる。元來聾啞にて、笑ふ泣く呼びかける等の叫び聲を有するこゝ、前陳の如くであり、しかもその叫び聲が、清らかな明快な聲でありながら、倍愈々發音發語にこれを利用しようとなるこゝ、これと異つた不明瞭不愉快な音を發するので、全く落膽せしめられる。換言すれば、彼等は言語の學習となるこゝ、「生みつけられたる聲を使はずして、造られたる聲を使ふ」のである。何故に然るか。若し神が然せしめるにならば、何ぞ神の惡戯の多きやと嘆せざるを得ない。

難聽兒になるこゝ、この發音發語の教授は容易になる。これ難聽兒は、教師から耳邊で大聲に言語を吹き込まれて、腦裏にそれらの標準を植えつけられ、自らその標準に合するやう大聲に發音發語し、(自らの口と耳とが接近せる故自らこれを聞き得る)試行錯誤によつて矯正し得るからのこゝである。従つてこれらの兒童は、正常の兒童と同様な清らかな言語を使用し、語彙も豊富に、學業の進歩も著しく、裕に正常兒に雁行し得る。而もこれらに讀唇を教へる所以のものは教場に於てこそ彼等は教師の言語を聽覺によつて受領し得れ、その他に於ては、距離を隔て、對談せざるを得ない所から、全聾同様他人の言語を讀唇する必要があるからのこゝである。

聽啞になれば、この讀唇を教へる要は更になく、全く正常者同様、耳に訴へて教授するのであるが、發音發語の教授の依然として困難である。これ彼等の多くは、失語と同時に精神能力をも缺損し、習得力低劣で、覺え難く忘れ易いからのことである。

以上各種の聾啞兒について、言語教育法の種類の異なるを擧げたが、その内生來の聾啞竝に生後夙に失官して生來聾を選ぶ所なきもの、或は時には多少聽力を殘存するをも、これを言語教授上に利用の出來ない程度のものに對して適用する讀唇法を、一名視法といふ。これ言語を聞かしめずに視せしめるからのことである。また聽啞に對して適用する普通の言語教授即ち耳より注入する言語教授法を、聽法といひ、難聽兒に對して適用する。一面讀唇せしめながら他面耳より注入する言語教授を聽視法といふ。聾啞學校の言語教授は、この三法の内の孰れかによつて行はれて居るのである。

五

聾啞幼稚園の「お話」が、普通の幼稚園の「お話」と異なること、大要上述の如くであるが、この外に尙一つ差異の著しい保育項目がある。それは唱歌遊戯である。普通の幼稚園に於ては、幾多の天使が嘲曉たる音樂に合はせて、拍子おかしく歌ひ舞ひ躍るのであるが、聾啞幼稚園には、音樂もなく唱歌もない。唯太鼓の拍子に合はせて、手振身振を或は急に或は緩に、或は強く或は弱く振舞のみである。而してこの拍子は、彼等が太鼓から生ずる空氣の波動を身體の皮膚に感ずるによつて知るのであつて、聽覺によつて知るのではない。普通の幼兒であつたならば、ピアノの拍子も、バンドの拍子も、聽覺によつて感知するのに、彼等は太鼓の振動を觸覺によつて感知するのである。再言すれば、聽覺の代りに觸覺を使用して、唱歌遊戯又は動作遊戯をするのである。

凡そこの一感官の缺損能力を、他の感官の能力によつて代償するを「機能代償」といひ、特殊教育の一原則になつて居

る。前陳の讀唇に於て、聽覺の代りに視覺を使つて他人の言語を理解するのも同様に機能代償であり、また盲人教育に於て、視覺の代りに觸覺を使つて點字を探り讀ましめるのも、手無の教育に於て、足を使つて食事針仕事タイプライター打ちから紅化粧の身たしなみまでをなさしめるのも、等しくこの機能代償である。

尙他の原則として、特殊教育を支配して居るは、「殘力利用」の原則である。前陳の難聽兒に耳邊の大聲によつて教授する、或は所謂補聽器を使つて教授するも、その例であるが、また鼓膜又は中耳の三聽骨の破壊によつて、音波を内耳に傳達するこゝの出来ないものには、電話の受話器を變形したものを齒牙または耳朶の後なる乳嚙突起に當て、音波を電波に變じて内耳の聽神經に傳へる。これ亦殘力利用であり、盲教育に於て、殘存視力を利用して、墨字を讀み書きせしめるも亦この原則を適用したものである。

聽官が缺損しても、聽覺の中樞が缺損して居ないに於ては、何等かの方法によつて、言語を物質振動化して傳達するこゝが出来ようが、しかし幼兒にせよ兒童にせよ、これを音とし語として識別するまでには、莫大な練習を要するこゝ、更に言ふを要しないが、聽覺中樞まで缺損して居るに對しては、何の施こしやうなく、結局は視覺その他の感覺を以て代償するより外に途がない。通常この前者に屬するを傳導聾といひ、後者に屬するを神經聾といひ、畢竟するに、聾啞幼稚園は、この二種の聾に對して、特殊教育の二原則を適用し彼等に幼兒時代の生活を享樂せしめるによつて、その發育發達を圖るを以て、固有の業務となして居るものである。

歐米幼兒教育視察記(四)

フレイベル館副社長
法學士、文學士
高 市 慶 雄

ブランケンブルヒのフレイベル模範幼稚園

フレイベルの名を冠した幼稚園が、獨逸國內に幾つかある中で、茲に謂ふブランケンブルヒのミ、シュワイナに在るものミが最も有名で、諸設備も一番整つて居ります。前者はフレイベル博物館ミ併立せられ、後者は保姆養成所を附設せられてゐる點で、夫々特徴があります。

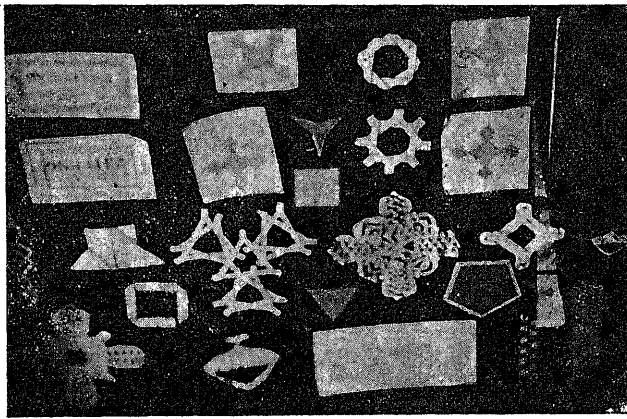
ブランケンブルヒは首都伯林から汽車で五時間位で達する中部獨逸の美しい小邑で、丁度チューリンゲン森林の入口に當つて居ります。皆々様も御記憶かミ存じますが、一昨々年この地に全獨逸保育大會が開かれたので有名になりました。フレイベル先生ミ此の地ミの關係に就いては、後程詳細に申上げる積りです。

ブランケンブルヒのフレイベル模範幼稚園は、財團法人になつて居つて、前ライプチヒ女高師教授、現在ナチス黨の有力者なるブルユファー博士の監理下にあります。收容園兒約五十名、六名の職員が居ります。

先づ私共を喜ばせますのは、幼稚園の環境です。大都市に於けるビルディング内の幼稚園ミは異り、獨立の園舎ミ獨立の庭園ミを有し、その建物は楚々たる風情の裡に瀟洒たる感じを與へます。園舎を圍む廣大なる庭園には、樺、リンデン、ポプラ、アーホルン、白樺等の樹林がそこはかミなく散在し、晩秋の風はそよ／＼ミ梢に揺れ、園兒はカサ／＼ミ落



フレール模範幼稚園園庭(落葉をふんで遊ぶ)



フレール先生創案世界最初の技手

葉を踏んで「後の正面だあれ」のお遊戯を致して居りました。更に庭園を圍繞するチューリングゲンの風物は一層魅惑的です。仰げば、高からぬ中部獨逸の山岳を四圍に眺め、伏しては潛々たるシュワルツァートル溪谷のせまらぎに耳を傾け、心ゆく許り獨逸の秋を楽しむ事が出来ます。こんな美しい大自然の懷に抱かれ、然も幼稚園の鼻祖フレール先生の故地で、行届いた保育を受けてるこの幼稚園の園児等の幸福を心から祝福した事で御座いました。たゞ保育の方法は、都會

に於ける如きアップ・ツ・デット
 なるものである事は申されませ
 ん。凡てフレール方式に則
 りフレール用具を使用し、手
 技恩物の種類も、フレール先
 生の時代の上に餘り多く出で
 をりません。主任先生の新考案
 に成るさいふ齒ブラシ戸棚さ、
 人形芝居舞臺さの存在が、僅に
 二十世紀の匂ひを發散させて居
 る位のものであります。フレール
 ベルの故地に於けるフレール
 幼稚園ですから、フレール

色に塗り潰されるのは餘儀ないにしても、今少しフレールベルの精神を生かし、フレールベルの形骸に捉はるゝ事なからしめば、一層フレールベル先生の御遺志に添ふ事であらうに、よそ乍らに感じた次第で御座いました。

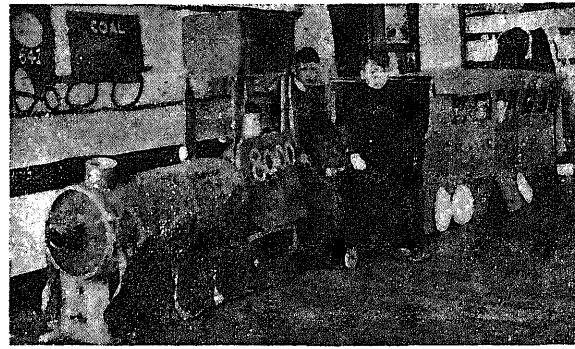
ニューヨークのコロンビア大學附屬幼稚園

この幼稚園を私が訪れましたのは本年五月初旬、こゝは人も知るコロンビア大學の師範學部 Teachers' College 附屬のホレスマン・スクール Horace Man School の幼稚園部といふ、山鳥の尾の長々しき肩書を持つ、然し世にも有名な幼稚園であります。園舎はニューヨーク市の北部山手に當るハドソン河畔の比較的閑靜な所に建つて居ります。園主事として長年に亘り、幼兒教育の研究普及に努力獻身致されました有名なるバツティ・ヒル女史は、昨年老齡の爲に引退、今は先の主任保姆ギャリソン女史が後任になつて居られます。女史は既に相當の御年配で、上品なお方であると共に、又實に叮嚀親切なる御婦人で御座います。一般に米國婦人は、國情柄ブライドの高い——少し高すぎる——お方が多い様に見受けましたが、ギャリソン女史の印象は全く反對で、流石は幼兒教育者であるに感嘆致しました。天真爛漫なる幼兒に國境の隔なき如く、幼兒に親しむ先生方も亦一切の偏見を棄て、國境の墻壁を超越して相睦み相語る事が出来るに確信して居りましたが、こゝの先生方に接して一層この感を深く致しました。

この幼稚園では、「社會的訓練」も申すべき事に最も力を入れて居らるゝ由、流石はデモクラシーの國であるに感じました。即ち先生と幼兒との關係よりも、幼兒相互間の關係に重きを置く事で、ギャリソン女史になつてから特に此の方面の訓育に重點を置いて居らるゝ相であります。従つて手技の如きも、一々の小さい個別的のものでなく、共同作業によつて共同の大きなものを製作する事、例へば共同して大きな重艦を作るか、人形は甲が作り、それに合ふ帽子は乙、靴は丙が作るこいふ風にして作ります。

また古いものですが、メイ・ポール May Pole に色分けの布を下げたものを盛に使用して居ります。これは室内遊戯として面白く、また色彩を覺えるにも役立ちます。臨畫の場合は、お手本は小さくて、それを擴大して大きく描かせます。

また作業教育、特に木工に力を入れて、大保育室の片隅に、木工用の相當の機械設備があります。大保育室主義でありませんが、椅子に坐らせる代りに、床上に跌坐させる事の多いのに驚きました。それは血液の運行上、また筋肉の複合多角的の運動の爲めに、色々のポーズを取る事が身體發育上有效な事が分つたからだ相であります。この點は、疊の上に住む我國の子供は、居ながらにして修練を積んでゐる譯で、一日の長があるに申し得ませう。この幼稚園では、給食も睡眠もとらせません(正午仕舞)。



コロンビア幼稚園共同製作

アメリカの幼稚園のみならず、西洋の幼稚園は一般にさうですが、運動場の狭い事、大自然に接する機會の少い事は、洵に遺憾の極で(前述のフレール模範幼稚園の如きは寧ろ例外です)、此の點は我國の方が遙に進んで居ります。例へば此のコロンビア附屬幼稚園の如きも、運動場は猫の額位しかなく、運動器具も極めて貧弱で、園兒全體の運動の時には、園の前の公衆道路の兩側に、簡単な柵を作つて——勿論警察の許可のものに——一時交通を遮斷して遊戯場に充てるにふ、我國では一寸想像も及ばぬ苦肉の策を取つて居ります。

尙ほ一言申し上げますが、最近入手した米國の新聞に、前園長ヒル女史の肖像が、名高いミルバンク・チャペルに掲げられるにふ報道が見えて居ります。これは教育者として最高の名譽の象徴で、御同慶の至りに堪えません。女史の業績は

多々ありますが、中にも幼稚園々児への實驗を輯録せる Series on Childhood Education (幼児教育叢書) 六卷の編纂は特筆すべきであります。その中の一卷 Conduct Curriculum for the Kindergarten and First Grade の題する書物は、「幼稚園及び低學年級の課程」の題下に、先年大阪市保育會研究部の手によつて翻譯刊行せられた事、皆様の御承知の事と存じます。

シカゴのゲージパーク・プレイグラウンド

これはミシガン湖畔シカゴ市の、中心に近い小公園の一角を占めた社會事業團體の經營に係る兒童遊園地であります。アメリカは一般に公園、特に遊園地の經營には力を入れて居りますが、中にもシカゴ市は其の最古なるものであります。シカゴには Chicago Park District のものがありまして、この方面の事を統一管理して居ります。私は團長 Mr. Todd 氏の誘導により、その全事業を見學する機會を得ました。幼稚園、托兒所、少年感化院、失業者授産所等様々の教育、教化、隣保事業を一見しましたが、プレイグラウンドも其の事業の一つとして經營されて居ります。青年部、少年部、幼児部の三部門に分れて居り、前二者の運動設備は先づ相當であります。幼児部には我國に全くない嶄新なもの、又は驚嘆すべき美事なものはありません。此の點我國も意を強うして可なりであります。ジャンゲルジム、鞦韆、コンビネーションの色々、オーシャンウェーブ、平臺、シーソー、廻轉ブランコ、遊動橋、メリーゴーラウンド、廻轉スケート等々で、敢て珍らしいものではありません。只この特定の園児のみならず、一般家庭の爲めに解放して、自由に使用させて居るのは、社會事業としての職能を發揮させると共に、幼稚園と遊園地とを繋ぐ一つの新しい試みとして興深く感じました。

(以上述べました各幼稚園及び幼児運動場の實況は、何れも活動寫眞に撮影して參りましたので、講習會席上に於て上映寫眞せられました)。

英詩の韻律

——英詩の味ひかた——

東京女高師教授 曾 根 保

昨年の秋、同志と共に「英詩談話會」を設立した時、その機關雜誌「英詩研究」の卷頭に私は次のやうに書いた——

英詩が英文學否世界文學に占めてゐる地位に就いては今更贅言を要しないが、從來さかく閑却され、或は敬遠され勝ちであつた詩型の方面にも大いに力を入れ、邦語譯のみで英詩の鑑賞が出来るさういふ風な謬見を排撃して極力原詩に親しみ朗讀を建前とする慣習を養ひ、更に進んでは英詩創作の機運をも興さうさういふのが英詩談話會創立の目的である。

尤も私は淺學非才、これから研究を進めたいと冀つてゐる位だから、右様の理想が何處まで實現されるかは疑問であるが、英詩の美しさが、單に詩の傳へる意味だけに存しないことは、前回にも述べた通り明白な事實であり、又わ

が短歌にしても之を朗詠する時の氣持には又格別の味ひのあるこも經驗の教へる事實であるから、從來顧みられなかつた英詩に於ける音調の美——大先輩漱石先生は無駄骨折ださ教へられたさうだが——それを求め得られるなら、收穫は決して少くないと信ずる。昨年公になつた岡澤武氏の「やさしい英詩の研究」なきは詩型に極めて懇切な説明が與へられてゐる點で注目すべき書物である。詩型即ち詩の調子の理解無くして英詩を味ふのは、耳の聞えない人が小鳥の歌を聞くやうなものであらう。薔薇の花も眼に美しいには違ひないが、色だけで薔薇を考へる人は御氣の毒にも思はれる。須らく色をも香をも、ミ申上げたい。英詩の花園には花の種類さういひ、それぞれのもつ芳香さういひ、實に驚くべきものがある。そこにはひるには眼だけでは不十分

である。耳も鼻も、否五官は勿論、魂までも鋭敏に働かせる覺悟がなくてはならない。英詩には英詩の領域がある。同じ藝術でも繪畫とも違ふし、音樂とも異なる領域を有してゐる。それを、即ち本質を、多少理解してかゝらないと英詩のもつ獨特の美を鑑賞することは望まれない。英國の詩人ブラウニングはその詩の難解を以て聞えてゐる人であるが、若い頃の作品「ソルデロ」は世界一難解の詩と評されてゐる。カーライル夫人はそれを讀んでみたが、「ソルデロ」をいふのは男か女か、町の名か人の名か、わからなかつた。嘆じ、ダグラス・デェロルドをいふ人は病氣上りに、寄贈の一本を手にして見たが、さつぱり意味が分らぬので「病は即ち癒ゆるに近し、頭腦に遂に用を爲さず」(漱石「文學論」六四九頁)と嘆じたといふ逸話がある。その「ソルデロ」の冒頭の一行は、*Who will, may hear Sordello's story told*。「ソルデロの話に耳をかきうにする人に、その物語をお聞かせする」といふのであるが、同時代の詩人テニスンはこの詩を讀んで僅に二行を解し得たに過ぎなかつたと言つてゐる。即ちこの一行と結末の一行 *Who would, has*

heard Sordello's story told (聞かうと思つた人に、今やソルデロの物語を語り了へた)とで、結局、中間の何千行かは解し得なかつたので、この二行も嘘だつたといふのである。私は今この誌上で、英詩に就いてお話する際、「ソルデロ」の冒頭の一行をもちつて、*Who will, may hear English Poetry told* とし、何ヶ月か後に *Who would, has heard English Poetry told* と結び、讀者諸君をテニスンの様な目に遭はせないやうに致したいと念じてゐる。然し英詩の花園に植ゑられた花は、歴史も古く、種類も豊かで、私のやうなノヴィスでは満足な手引は覺えないとは思ふが、せかさず、ゆつくりと話さしていただきたい。

秋晴れの空に飛行機のプロペラの音を聞く時、吾々は空を仰いで晴れ々とした氣持になる。これは遙かの空から落ちてくる爽快なリズムに魅せられてゐるのである。もし、頭の直ぐ上でブルブルと鳴つたとき、耐へられない騒音に違ひない。又靜かな夜更け、遠くを走る汽車の音を聞いてゐる時、何かしら言ひ知れぬ感情が涌いて旅を思ひ出すものである。しかし早く眠りに入りたいと思つてゐる

乗客にまつては、夜汽車の車輪の音は決して楽しいものではない。同じ音が時には爽快であり、又時には不愉快なのは一體どういふわけであらうか。元來多くの人は音調を音樂的調子に翻譯し、リズムを曲節くせつに變へようとする無意識的傾向をもつてゐるものであるが、リズムも餘り耳も近くで、しかも烈しい音になるこゝ、それを曲節に變へる餘裕が與へられないので、プロペラの音も、車輪の音も近くでは單に騒音に過ぎないのである。前に述べたやうに吾々に主觀的リズムを創造する能力があり、又すべてリズムを曲節に變へて解釋しようとする強い傾向があるのは頼もしい限りである。ブラウニングは地中海航海中、汽船のピストンの音を聞いて、そのリズムに魅力を感じ、かつて故郷で乗りつけてゐた乗馬の馳足を想ひ出した。そして卽座に、手にしてゐた詩集の扉に次のやうに書きつけた。

I sprang to the stirrup, and Joris, and he;

I galloped, Dirck galloped we galloped all three.

これが「デントよりエイクスへの吉報」を題する有名な詩の冒頭になつたのである。

さて、韻律メーターは「齊一なリズムが語音に表はれたもの」である。述べたが、リズム(rhythm)とメーター(meter)も言葉の意味から言へば同じやうなものである。即ちリズムはギリシア語の *rein* (= to flow) から出た *rhythmos* であり、ラテン語の *rhythmus* を經て今日の英語にはひつたのである。その意味は *an even, measured motion* (齊一な運動) であり、メーターはギリシア語 *metron* (a measure; a rule) からラテン語 *metrum* を經て今日の英語にはひつた言葉である。これも a *measured motion* の意味である。しかし詩型の上からリズムといひ、メーターを言ふ時は、語源或は語義の上から考へた意味よりも、もつて特別な意味によつて區別されたものでなければならぬ。即ちリズムは目に見えない齊一な時間的運動であり、メーターは齊一なシラブルの排列を象徴して目前にあらはれたものである。前回に、メーターを決定するリズムの單位を見出す爲には言葉の音の最も單純なもの、即ち一つのシラブル(綴音)に就いて考へる必要がある、と言つたが、シラブルは「單純にして途切れない一息を以て發聲せられた音の一體であ

つて、一語或は一語の一部分を成して居り、一つの母音又は音節構成音(1・r・m・n)をその前後に在る一つ或は一つ以上の子音を含むものである。日本の歌やフランスの詩などはシラブルの数を基調とするが、英詩はシラブルの持つ強勢(stress)假にアクセントを考へて置いていた(く)の配合によつて成立するのであるから、韻律(メトリック)の決定には、詩の一行を先づシラブルに分けて、そこに含まれる強勢の数を求めねばならない。例へば father という語を發音する際、最初のシラブル fa を強く、後の ther を弱く發音するやうに、二つ以上のシラブルから成る語にはどこか一つのシラブルに——大抵意味のあるところであるが——必ず力を入れて發音する。英語は日本語と違ひ、元來アクセントの強い言語であるから、アクセントを忘れて英語は存在し得ないのである。一つのシラブルの語にはその母音に、二つ以上のシラブルの語にはその母音又は音節構成音の何れか一つにアクセントがあつて、時には他の一つに第二のアクセントが存する場合もあるが、何れにしろ、アクセントを忘れては英語にならないといふこと、殊に英

詩ではそのアクセントがリズムを構成してゐるのであるから大切この上もないものであることを記憶していただきたい。日本人がロンドンで Victoria Station へ行く道をきいたがさうしても通じない。シラブルが Victoria Station と言つたら始めて通じたといふ昔話がある。又私が直接團伊能男爵から聞いた話だが、British Museum(英國博物館)へ行く道を尋ねてもさうしても分らない。そこでアクセントを變へて Museum の第二のシラブルにアクセントを置いたら直ぐ巡査が教へてくれた、恐ろしい話だといはれた。尤もアクセントも時代により、地方により、文章中の位置によつて多少の異動があり、なか／＼むづかしいものではあるが、原則はやはり心得て置かねばならない。「メリケン粉」や「ミシン」などはアクセントをよく捕へて日本語に移してゐる點で、私がかね／＼感心してゐる。これらは耳から輸入された英語だからであらう。多くのシラブルをもつ語ではその一つに強いアクセントがあつて、他のシラブルは多くは所謂 obscure sound(曖昧音)となつてしまふのであるが、その曖昧音になつた音にも關係的に強い弱い

が存する。comprehensibility といふ語に於ては、原則として *ty* の前のシラブルが一番強いから、其前にはアクセントはない。此の語をシラブルに分けて Com-pre-en-si-bi-li-ty といふアクセントの順をつけてみるに *bi*, *com*, *hen*, *ty* がついて他は全くアクセントをつけない。アクセントのあるシラブルの順はさうしてつけたかといふリズムによるのである。即ち *Com*, *hen*, *bi*, *ty* を並べて此四つの *bi* が一番強いのであるから、直ぐ前は弱く、其前は強い。しかし *bi* には敵はない。それで *bi*, *com*, *hen*, *ty* の順序になつて全體が非常にリズムカルになる。prepare といふ動詞には第二にアクセントがあるから「プリ・ヘア」になる。然し preparation といふ名詞になる *tion* の前に一番強いアクセントが来るのが鐵則であるから、*pa* にはアクセントはなくなるが、*pre* には第二のアクセントが生れる。従つて「プレ・バレイション」になる。何萬といふ中には例外も数々あるが、例外の無い原則は無いといはれる位だから仕方もない。かやうに一つの語を三つて來てシラブルから其のアクセントを眺め、一、二、三の順序をつけることも出

來るが、實際話されてゐる言葉のアクセントは客觀的には殆んど無限である。然し吾々の耳が測り得る能力は不精確であるから、凡てのシラブルは實際には stressed (強勢)、unstressed (無勢)、half-stressed (半勢) の三つの中の何れかに屬するものとみてよい。continuity といふ語を普通に發音するに第三のシラブルが stressed で、第二、第四のシラブルが unstressed である。然るに韻律の上からは第一と第五は half-stressed である。そして half-stressed のシラブルは韻文に於てはさういふこともよく、時により stressed ともなり、又 unstressed ともなる。

さて詩の一行を見るに、それが形の非常に整つたものなら強弱のシラブルの規則正しい反復から成立つてゐる。即ち同一韻脚の倍數から成立つてゐる。そして一韻脚中に於ける強音の部は常に一個であるが、強音の間に挟まれてゐて合間をなす弱音は二シラブルから成る時もある。即ち

My thoughts | still cling | to the mould | *crin* Past
 或は

The mul | titud | *inos* seas | incarn | *adine*

の起すリズム)、これさへ分れば英詩のミーターを理解し得たと言つてよい。アイアムバスは其逆の配置にあるトロウキーに比べて遙かに大膽で男性的である。トロウキーに缺けてゐる迫力がある。シェイクスピアやミルトンの用ゐた無押韻詩、又民謡、ヒロイック・カプレット、ソネット、或は讚美歌の多くは此のリズムで書かれてゐる。

韻律の種類。詩の一行、即ち verse は、(一)行中の主要な韻脚の種類ミ、(二)行中に含まれてゐる韻脚の數に従つて各々名稱が與へられてゐる。各行の韻脚の數は一から八まで變化し、一般に次の如く呼ばれてゐる。

Monometer	verse	of	1 foot
Dimeter	"	"	2 feet
Trimeter	"	"	3 "
Tetrameter	"	"	4 "
Pentameter	"	"	5 "
Hexameter	"	"	6 "
Heptameter	"	"	7 "
Octameter	"	"	8 "

即ち詩の一行の長さは吾々の呼吸によるので、八韻脚に

なるさぎんな人も一息で發聲することはむづかしい。少くも快感を覺えないであらう。それで一番多く用ゐられるのは五韻脚である。外形のこゝであるが、詩の一行さいふのは丁度散文の sentence に相當するもので、行末で意味が完結するか、休止を置くかが普通である。前回のグレイの『悲歌』の第一節を想ひ出していたゞきたい。詩行の始めを大文字で書く習慣になつてゐるのは右の理由によるのである。尙散文 (prose) は straight onwards「眞直ぐ」さいふ意味に對して韻文 (verse) さいふが、verse さは詩の形の方から考へた時にさいふので、詩 (Poetry) さいふ時は質又は内容として考へた意味であつて、韻文必ずしも詩でなく、又散文にも詩はあるのである。詩ミ散文ミを混同しないやうに注意を要する。verse の語源はラテン語の versus (= turning, vertere = to turn) で、詩人が一行書いては又元へ戻つて新しい行を書き始める處から來てゐる。それで verse さいふ時は詩の一行の事もさいふし、又韻文全體をもさいふのである。verse はすべて大文字で書き始める習慣であるが、詩人の中には此形式を破つて書く人もある。

兒童心理學文獻抄 三

牛島義友

子供の道德

子供には惡意はない。併しよく虚言を云ふ。惡意のない虚言、之は虚言云ふ譯に行かないであらう。子供の爲した事の結果から判断して大人の積りで子供を罰する事は意味のない事云ふよりも有害な事である。子供は何故虚言を吐いてはいけぬか云ふ理由として叱られるから云ふ。斯る考へ方から如何にしたら子供に自律的な道德意識を抱かせる事が出来る様になるであらうか、此の問題を解決する爲には彼等の道德性を正しく知りその發達の條件を明らかにしなければならぬ。

ジャン・ピアジェ、子供の道德觀、霜田靜志、竹田浩一

郎譯著(東宛書房、昭和十一年)。

波多野完治、子供の道德(刀江書院昭和十一年)

ピアジェの兒童研究に就ては既に一部紹介したが、最近の研究たる「子供の道德觀」が前記の書によつて翻譯或ひは紹介された事は喜ばしい。彼は子供の道德意識の特徴を道德的實在觀とし、それに就て詳細な説明をなしてゐる。第一章は遊戯の規則に就ての子供の考へ方を分析して子供の道德觀を研究してゐるが、今は特に興味ある第二章に就て少しく紹介しやう。

こゝに於ては子供の道德的判斷を考察してゐる。先づ道德的考へ方が出来る前に既にそれに應じた道德的行動がある。子供が現在持つてゐる考へ方は一、二年前の行動を反映してゐるので、現在の考へ方通りに現在行動してゐる譯ではない。此道德觀と道德的行動とのいづれを考慮に入れ

て見て行かねばならない。さて次の様な盗みに關した話を二つ聞かせる。

イ、アルフレッドは貧乏な一人の友達を持つてゐる。今朝も御飯を食べなかつた云ふのを聞いて氣の毒になりパン屋に入り店の者が右を向いてゐる間にパンを一つ窃つて友達に與へた。

ロ、アンリェットが或る店に入るに奇麗なりボンのあるのを見てさぞ自分の着物に似合ふだらうと思つてこつそり盗んで逃げた。

此の二人の中どちらの方が悪いか、ミ聞いて見るに年少の者(六、七歳)には結果から判断する者が多い。例へばリボンよりもパンの方が高價だからパンを取つた者が悪い、従つてパンを取つた者は頬ぺたを四つ打つて叱らねばならぬがリボンの方は二つでよいミ考へて居る。斯る結果から判断する考へ方はその他の場合にも色々見られる。例へば過失で十一の茶碗を割つた者ミ盗み食ひをしやうとして一つの茶碗を割つた者ミを較べれば前者の方がより悪い。何故ならば澤山毀したから云つて、過失の原因道徳

は問題にしない。

或ひは虚言ミ云ふ事に對して子供はどんな考へを持つてゐるであらうか。最も原始的な段階に於ては嘘は悪い言葉と思つてゐる。例へば「馬鹿」ミか「間抜け」ミか云ふ云つてはいけない言葉」を云ふ事が嘘だと思つてゐる。

次に六歳から十歳位迄の子供の普通の定義は嘘は本當でない事だ云ふ。併し此の言葉の中にはごまかしミ過失ミを混同してゐる。例へば、

嘘つて何だか知つてゐるかい?——本當じやない事を云ふ事——「二に二足す五」、之は嘘かい?——うん、嘘だ。——何故?——正しくないから。——二に二足すの五ミ云つた子はわざミ云つたのかい? 知らないで云つたのかい?——知らないで云つた。——ぢや、知らないで云つた時も嘘になるかい、ならないかい?——嘘になる——それは悪い事かい?——あんまり悪くない。

或ひは更に具體的の嘘の例話をして聞かせる。例へば甲の子供は道で大きな犬に會つて非常に怖かつたので家に歸つて牛程もある大きな犬を見たミ話した。乙の子供は今日

先生からよいお點を貰つたミ嘘を云つたらお母さんは喜んで御褒美をくれた。即ち前者は惡意のない誇張、後者は瞞さうミ云ふ意志の明らかなものである。此の二人の中どちらが惡いか。小さい子供は牛程大きい犬なんてゐないから嘘で惡い。後者の方はお母さんが信じたのだから惡くないミ云ひ、こんでもない考へ方をしてゐる。お母さんが信じらるならばよく、お母さんが信じないならば惡いミする。それが大きい子になるミ、嘘の動機内容から判斷して點をごまかした子の方が惡く、前者は「牛を犬ミ間違へたんだ、頭が惡いんだよ」ミ解釋辯護したりする様になる。

以上の様な行爲の結果から判斷したり、叱られるから惡いミか、判斷の根據を外部のものに歸する考へ方を道德的實在觀ミ云ふ。斯る考へ方になる原因は二つある。一つは子供の本來の考へ方による。即ち子供はすべてのものを精神化するミ共に物質化して見る。夢ミか考へる事等も皆物質的な實在的なものに考へる。斯る爲に道德的行動を見る場合にも精神的な動機よりも具體的な結果を見、それによつて判斷せんミする。

斯る生來の傾向がある上に第二の原因ミして親の教育態度が影響して來る。即ち子供に善い習慣をつけんミして様様の規則や命令を子供に課す。或ひは子供の行動に對して一々賞めたり叱つたりする。併し、子供には何故叱られねばならぬかが分らない事が多いので、惡い事をしたから叱られたミ云ふよりも、叱られる事が惡い事だミ思つて來る。惡い言葉を使ふミ叱られる。嘘を云つても叱られる。それで惡い言葉ミ嘘ミは同じだミ云ふ三段論法を行ふ。

以上の様な道德的實在觀は元より正しい道德觀ではない。子供がより高い道德意識を持つ様になるのは協同的な社會生活を營む様になつてからである。幼兒の間はまだ大人に對して一方的尊敬しかなさず、大人の云ふがまゝに他律的な行動をする。それが他の子供との協同生活によつて相互的尊敬を拂ふ様になつてから自律的意識が生じて來る。親ミか教師ミかがいつまでも一方的な尊敬を要求し、教育的な態度で臨んでゐるミ子供の正しい道德的發展が得られず、激しい反抗になり、豫期せざる結果を招く事になる。次に子供の惡癖ミか困つた性質に就て調べ此の方面から

彼等の道徳的生活を眺める事にしやう。

フッカーソン、子供の困つた行動 (L. Ackerson: Children's Behavior Problems I, 1931)

米國では教育相談事業が非常に發達して子供に困つた問題が起るに相談所の援助を求める。之はある相談所を來訪した五千名の子供に就てその困つた問題の種類を調べたものである。此の中には少數の不良兒も含まれては居るが、大部分のものは普通の子供である。彼等はどんな問題を持つてゐるであらうか。最も多い問題は偏食さか、落付きがない事、教室で他に迷惑をかけるさか、甚しいのは狂氣の疑ひさか、或ひは不義の妊娠等の性質行動に關した問題である。

次に多いのは知能に關した問題で、その他職業指導さか、身體缺陷者等の問題がある。故に行動や性質に關係した問題に就て更に研究して見やう。

困つた問題としては數百の問題が數へられるが、之等の中には年齢と共に増加して行くものも減少して行くものもある。前者は子供が將來惹起すであらう問題を意味し、

後者は幼兒の現在の問題を示す故に何等から參考になるかと思ひ問題を列擧する事にしやう。

年齢と共に増加する問題

性質に關したもの——つかへた讀み方、白晝夢、自己耽溺、陰氣な様子、神經過敏、劣弱感、年下の子供のみ遊びたがる。心配症、早發性痴呆の疑ひ、無反應、過度の被暗示性、創始性や野心の缺如、無關心、人格の變轉、變質傾向。

行爲に關したもの——拘引、收監、異性に對し過度の興味を持つ、性的關係、不義の妊娠、喫煙、粗暴、家出、怠惰、轉職、就職拒否、性的不良、窃盜、賭博、手淫、自殺未遂、陰氣、近親相姦、怨恨、虛言症、徒黨を組む、惡友、夜遊び、責任感缺如、父兄の家に住むのを嫌ふ。非能率的。

年齢と共に減少する問題

性質に關したもの——落付きなし、氣が散り易い、甘つたれ、泣きみそ、内辨慶、心配症、神經質、夜恐症。

行動に關したもの——遺尿症、癩癖、破壞性、暴力、大便の失敗、教室で騒ぐ、異性との相互手淫、指を吸ふ、偏

食、反抗、年少者に殘忍、親分氣取り、不從順。

その他色々あるが、以上が主要なものである。

寺田精一、兒童の惡癖(中文館、昭和十一年、重版)

子供の問題を數へる事は易しく、子供の行動を診斷する事はさほご困難ではない。併し之を矯正し、治療する事は難事中の難事である。子供に對する絶大の愛が必要であるが、その方法はあくまで合理的でなければならぬ。子供の矯正法に就ての意見は數多く發表されてゐる。併し科學的根據を持つた治療法は遺憾乍ら甚だ乏しい云はねばならぬ。之らは教育治療學の發達に俟たなければならぬ。併し現在問題を持つてゐる子供に對してはさにかく間に合ふ治療法が必要である。此の意味で本書は最も推賞に價ひするもの云つてよからう。即ち、彷徨、怠惰、盗み、嘘言、賭け事、間食、潔癖、不潔癖、弄火、殘酷、口答へ、性的惡癖、遺尿等の惡癖に就てその原因並びに取扱ひ法に就て説明が加へられてゐる。

之等の子供の問題について内外の研究を紹介し信頼性のある處適法を述べる事は必要な事と思ふが、いづれ稿を改

めて詳述したいと思つてゐる。

以上二十三回に亘り兒童心理學に關した文獻を抄録して來た。問題別に紹介した爲に最近の研究で紹介に價ひするものも多々あるが、之等を紹介する機會が得られなかつた事は残念である。

又重要な問題に就て、例へば遊戯の問題に就て述べなかつたが、之は別の機會に補ひたいと思つてゐる。

又初めは邦文文獻を主とする豫定であつたが、問題の都合上、外國の文獻に頼らざるを得なくなつた。吾國に於ける兒童研究は古く明治二十八年のブライヤーの翻譯にさかのぼる事が出来るが、明治年間の兒童研究は殆どすべて外國の研究の翻譯に止り、大正年間に入つて専門の兒童心理研究者が現はれる様になつたが、獨自の研究が數多く發表されるに至つたのは漸く昭和に入つてからである。従つて取上げられた問題も少數であり、子供の教養保育に關聯して研究されたものは又その中の少數である。故に日本に於ける研究のみにては殆ど實際家の要求にはそぐはないと思ふ。今後日本に於ても先進の米獨に劣らず數多くの勞作が

なされ、幼児保育に直接役立つ結果が生れる事を希望して止まない。之につけても保姆ミか父兄等の實際家が研究者ミ協力して研究する事が必要である。實際家が色々の困つた問題を提供し、それに就ての知見を研究者に報告し、それに基いた研究者の組織的な研究に便宜を與へる、例へば質問條項に丁寧に答へるミか、兒童觀察の便宜を與へる事等が必要である。斯くして初めて子供の正しい認識ミ合理的な教育法が生み出されて來る。

最後に此の稿を終るに當り最近の概括的な邦文兒童心理學書に就て一言しておかう。

我國に於て單行本ミして發表された兒童青年期に關係した心理學書は百三十冊に達し、教育的心理學を含めれば三百七十冊に垂んミしてゐる。之等の中には既に古本屋にても入手したいものもあるが、兎に角かく多數の書物が出版されてゐる事は讀者には却つて迷惑の事かミ思ふ。故に最近出版された主要な概括的な單行本に限つて良書を推薦しやうミ思ふ。此中には幼児期に關係のあるものを選び、異常兒のものは省いた。

先づ最初に讀むに適した書物、即ち餘りに専門的に互らず平易にして正確な知識を供給してくれる書物ミしては次のものが適當である。

青木誠四郎、**兒童心理學**、賢文館、昭和十一年、三圓五十錢

丸山良二、**幼兒の心理**、三友社書店、昭和六年、二圓

檜崎淺太郎、**日本教育的心理學**、藤井書店、昭和八年、五圓五十錢

もう少し簡単な書物を要求されるならば、

大脇義一・立花祐雄、**兒童心理**、叢文閣、昭和十一年

以上の書のいづれかを讀まれた後に子供に就て考へ直し、更に深く知る爲に次の小著は適當である。

波多野完治、**子供とはどんなものであるか**、刀江書院、昭和十一年、一圓

尙之に關聯してピアジェの研究を讀むミ好い。

波多野完治、**兒童心理學**、同文館、昭和六年、二圓五十錢
更に進んで種々な兒童に關した知識を得たい人の爲には、

千葉胤成、幼兒の精神、東宛書房、昭和十一年、二圓五十錢
加藤正英、兒童保育の基礎としての心理學、大阪寶文館、

昭和十年、一圓二十錢

波多野勤子、子供の發達心理、刀江書院、昭和十一年、一

圓八十錢

久保良英、兒童心理學、藤井書店、昭和六年、四圓五十錢

次の書は最近の兒童研究に餘り觸れては居ないが廣く讀まれて居るものである。

上野陽一、兒童心理學精義、中文館、大正十年、五圓三十錢

關寬之、兒童學原論、東洋圖書株式會社、昭和二年、四圓

八十錢

關寬之、最新兒童心理學、廣文堂、大正十四年、貳圓八拾

錢

尙中文館發行の久保良英編輯、兒童研究所紀要是進んだ

研究者の參考になり、次の書は方法的に暗示を與へる。

小野島右左雄、性格心理學と兒童研究、中文館、昭和八年、

參圓

波多野完治、兒童生活と學習心理、賢文館、昭和十一年、

貳圓八拾錢

その他翻譯物としては、

ビネー原著、波多野完治譯、教育心理學、古今書院、昭和

五年、參圓

ブフォード原著、竹井健藏譯、兒童精神の發達、古今書院、

昭和五年、貳圓貳拾錢

コフカ原著、縣卷太郎譯、兒童精神發達の學理、モナス、

昭和十年

依田新・中野佐三・後藤岩男、實驗兒童心理學の進歩、南光

社、昭和十一年、貳圓

ワトソン原著、細井次郎・齋田晃譯、子供は如何に育てら

るべきか、成美堂書店、昭和九年

ニール原著、霜田靜志譯、問題の子供、その他、刀江書院

その他叢書、全集の形式にして、

子供研究講座、先進社、昭和三年

我が子の育て方全書、平凡社、昭和十年

子供の問題全集、刀江書院、昭和十年

兒童教育講座、叢文閣、昭和十年

子どもを歌つた大隈言道

三津 迪

わが國の古い歌に子どもを歌つたものゝ少いことは、すこしでも昔の歌集なごを見た人には容易に察せられることでありませう。勿論萬葉集には、山上憶良の「子等を思ふ歌」もか「老身重病年を経て辛苦す、及び兒等を思ふ歌」もか「男子名は古日を戀ふる歌」もか、よく引用せられる名歌がありますし、下つては、源實朝の「物いはぬ四方のけだもの」や「いさほしや見るに涙なき知られた歌がありますものが、それらはきはめて異例なのであつて、平安朝以後歴代の勅撰集や家の集にはまづほんご見當らないのであります。これには色々の理由が考へられますが、最大の原因は、その當時の歌の觀念と言ふものが子どもを對象とするにはひどく遠いところにあつたからであらうと思はれます。第一、一般に素材の如きもすこぶる限定された範圍か

ら取りあげてゐたに過ぎぬのであります。花と言へば、梅櫻、鳥と言へば鶯郭公といった風で、稀にすぐれた歌人があつても子ども生活といふやうなことが歌はれることはほんごなかつたのであります。かう言ふ傳統的な觀念は、おぼざつばに言つて古今集以後江戸時代の前期までながく續きましたが、この頃、御承知の釋契沖もか荷田春滿もか賀茂真淵もか言ふ人々が現れて傳統的なものを理論的に解剖して和歌の本質でも申す事柄を究明するやうになりました。こゝで當然、題材なきも問題になり、從來の狭く觀念的な考へが、すつと擴げられるに至つたのであります。併し、その謂はゞ新人たちである春滿もか真淵もか又は本居宣長もかは、やはり學者であつて歌人ではなく、理論的には新味のある見解をたてはしましたものゝ、結局、

萬葉集とか古今集とか或は新古今集とか古い歌集に自然目標をおいて作歌しましたから、充分なる和歌革新はできま
せんでした。また續いて小澤蘆庵や香川景樹なきが出て、
更に徹底した意見のもとに新しい和歌を提唱しましたけれ
ども、これも結局は古今集を宗とするところに歸着して、
なるほぎ或る程度の革新はできましたが、まだ我々を肯首
させるに至らなかつたやうであります。しかるに、幕末す
つこおしつまつてから出た歌人たちに、なまじつか歌論な
き言ふ理窟をのべたてない人たちがあり、その中に本當
に我々を動かす人のあることを注意すべきであります。
これは一つには先人の唱へた和歌革新の意見が本當に浸潤
した結果でもあり、またそれを實行すべき本當の創作家が
出たためでもあると思ひますが、これより述べます大隈言
道もその一人なのであります。

言道は寛政十年福岡の生れ、明治元年七十一歳にして歿
しました。早くから文事に従ひ主として藩士二川相近に歌
書きを學んだのでありますが、中年から歌に独自の考へ
を持つに至り、貧困のなからよく作歌に没頭した人であ

ります。「ひきりごち」(安政四年成)言ふ隨筆の中で言道
は、自分は天保の民であるから天保の歌をよむ、古人に執
してその糟粕は嘗めないとか、雲上人の束帯したやうな歌
ばかりが歌ではないとか言ふ意味のことを言つてをります
が、確かに面白い意見だと思はれます。かう言ふ考へから
言道の詠みました歌は實に輕妙なものが多い。しかも全體
として、深沈たるものは見られない代りに、平淡な明るさ
がみなぎつてゐるのであります。用語にしてからがきはめ
て自由で、俗語風の言ひ方もぎし／＼用ゐてゐる。かう言
ふ風でありますから題材も自由に廣く色々なものを扱つて
をります。もつとも我々の作歌に就ての考へ方から言へ
ば、これは當然のことでありますけれども、所謂舊派に屬
する歌人歌壇の當時の状態から見るに餘程これが變つても
ゐるし、またすぐれても居たのであります。

一體、子ぎもを歌に扱ふ言ふのは、子ぎもに對して興
味を感じてゐなければ出来るものではありません。殊に
その生活的なものを歌ふのは、歌ふ大人自身に子ぎも的な
ものがなければならぬと思ひます。我々は眞心歌人として

よく良寛の話をきゝますが、良寛が子ぎもを扱つて多くのすぐれた歌を残したのも、例へば、一晚中隠れんぼをしてるたこ言ふやうな痛快な逸話によつて知られるあの無邪氣な日常生活を思ひます。全く無理のないところを思ひます。また我々は一茶を知つてをりますが、あの不運な生活で、そのために狷介であつた性質の中にもたしかに子ぎものやうな心があつたことは、傳へられた諸々の話によつて充分うなづけるを思ひます。さうでなくては「ぶらんこや櫻の花をもちながらだまか」これほごの牡丹を仕方する子かな」の如き句はさうしてもでゝ來なかつたを思ひます。また我々は、しばゝ言道を竝んで論ぜられる志濃夫しののぶ烟舎たばな橘たちばな曙あけぼのをみます。こぼれ糸網につくりて魚をさるる二郎太郎三郎川に日くらす」だの、例の獨樂吟の中なる「たのしみはまれに魚煮て 兒等皆がうましようましといひて食ふ時」なごがあります。やはりこれも、その奇骨稜々たる性格の中に如何にも素直な童心的なものゝあつたことを思へば蓋し自然の結果でありませう。

そこでしからは言道の子ぎもの歌はさうであるかを考へ

て見たいを思ひます。一體、言道の歌集には南櫻集・篠舎集・鳧居集・今橋集・戊午集なご色々ありますが、もつとも代表的なものは文久三年に刊行された草徑集であらうを思ひますから、こゝでは便宜この草徑集を見ることにいたします。まづ

童ざちわろびたはぶれ一つだにさけば摘みさるさちかう
の花

桔梗 上巻

里中に遊ぶをこめは結ぼれの解くる帯だにみも知らずし
て

少女 中巻

の二首を見ます。これは一見平凡のやうであります。前の歌の「わろびたはぶれ」、後の歌の「みも知らずして」言ふ表現は、無雜作のやうでありながらなかく苦心したものではなからうかと思ひます。元來、言道はその作歌に實に推敲を重ねた人で、語句の訂正は勿論、自分の歌に自分で善惡の評を書添へて見たり、きはめて多くの草稿の中から嚴選の結果家の集を編んだりして些かもおろそかにしなかつたもので、この想像は失當ではないを考へます。しかも、これらの言葉が子ぎもの様子をまごこによく描寫し

てゐる、例へば、この頃の日本畫に好んで用ゐられる村の子ぎもの繪にでもありさうな構圖だと思ふのであります。殊に前者にはぎこかおぎけた調子も見られ、そのために一層童話的氣分も窺はれるやうに思ひます。これに近い氣持のものとしては

こたへする壁面白み山彦をかぎりもなしに呼ぶわらはか
な

山彦 下卷

を擧げ得られます。これも子ぎもの生活をよく觀てゐる言へませう。「かぎりもなしに」が實に生きてゐる。私はこれを讀みますと、鷗外の「木精」を思はずにゐられません。勿論、言道はフランクのやうな感慨をこの歌にこめてゐるのではありますまいけれども、無心に山彦を呼ぶ子ぎもの「血色の好い丈夫さうな」様子や「喜びの色が輝く」生の色」をたゞへた顔が見えるやうに思はれます。

何事もえかゝぬ筆を少女ごちこりて遊べるつくつくしかな
な

土筆 中卷

さし柳さしていくかも經ぬものを根ざし引き見る友わらはかな
な

柳 中卷

これも同じやうな氣分を示すものであります。殊に柳の歌は、鼻を鳴らしならし眼をまろくして泥まみれの根つこを見てゐる子ぎもが浮んで參ります。また

若菜つむ友におかれてあぢきなく啼く子もまじる春の野邊かな
若菜 中卷

は「何事もえかゝぬ筆」に比して更に一層生彩がある、動的な感じがすると思ひますが、その無心の生活を氣ざらずに歌つたところが、傳統的な考へから言へば卑俗な調子と言ふべきでありませうけれども、すぐれてゐると思はれます。同じく泣く子の歌には

少女らが山のそばかる秋風にせにおふ子さへわりなくぞ泣く
山秋風 上卷

と言ふのもあります。前鉢巻の子守、はんでんで負はれ火のつくやうに泣く子、それに落莫たる秋風、この情景の自然さは尊長さるべきだと思ひます。

また泣く歌に

何ごまか遊ぶあそばぬいさかひも泣くぞ限りのわらははべの友
わらは 上卷

も面白いではありません。手ばなしで、涙と鼻汁と汗とごちやくくにして泣く子の顔、よにも悲しい表情、たしかにこれで喧嘩はおしまひであります。

聞きすて、飯たく親の見ぬまにも聲の限りになくうなるかな
貧家 上卷

この泣く歌は「閨に泣聲のするを目の覺むる相圖あいづさだめ」記してゐる「おらが春」を想ひ起させます。おらが春と言へば、悲惨な歌に

親なけば子さへ泣くなり世の中のせむすべなさも何も知らずて
子 上卷

と言ふ(少しく理窟はつてゐるやうにも思ひますが)のがあります。これは

親も子も打ちぞそろひてそば湯さへ霰ふる夜は哀れにぞ飲む
寒夜 上卷

夕さればわらはも老も泣くばかり雪より寒き雨のふるむ
寒雨 上卷

なき、同様、言道自身も子もこの生活が偲ばれませう。そしてどこかに一茶に見られるやうな痛々しさがあります

けれども、決して一茶流の皮肉や、また別の見方からして「糟湯酒鼻かすゆざけひしびしに」噉つた憶良のやうな道學者流の臭のないところを注意せねばなりません。

比較的知られてゐる歌に
妹が背にねぶるわらはのうつゝなき手にさへめぐる風車
かな
風車 上卷

あけぬれぎ親の心の闇のうちに朝いせさする家の少女子
娘 中卷

の二首があります。かう言ふ境地、殊に前の歌のやうな世界は全く従來の歌に見られぬところであつて、たしかに言道の歌のよさ、また言道自身のよさが窺はれるものであります。かう言ふよさが結局

童こそいたくほりすれくれ竹の子はこのごちの相思ふご
竹の子 中卷

幼きもまた幼きをなつかしみ鳥の子いだく里のたわらは
わらは 中卷

の如き歌を、卒直に作らせずにはおかなかつたのでありませう。この二つには共通の要素があつて、それによつて言

道が子ぎもの世界を言ふものゝ存在を充分認めてゐたこと
が知られませう。この事は又、多少類型的ながら

けふ見れば少女になりぬ去年までは一足しても飛びしな
らすや 少女 上巻

幼げも早なくなれる童さへ背におはるゝや樂しかるらむ

童 中巻

に於てもみこめられるを思ひます。そして

風吹けば庭の木の葉のよるばかり片すみごこにゐるわら
はかな わらは 上巻

うごめほる谷の底なる少女もまれには峯の行きかひも

見よ

村童 下巻

いくばくのおさりまさりも見えぬ子の負へる負はるゝ哀
れなるかな 嬰子 下巻

の如き全く子ぎもそのものゝ中に入りつくした言道独自の
歌がなり立つものゝ考へられます。

以上の例だけについて見ましても、言道はまごこに子ぎ
もの生活に深い關心を有してゐたことを理解し得ると思ひ
ます。そして良寛や一茶や或はまた曙寛のまごこに見られ

るのと同様、言道自身、童心の持主であつたことは想像す
るに難くないのであります。前にも申しました通り、私
は、子ぎもの歌をよくし得るものはそれ自身童心をもつも
のであるを考へてをりますけれども、さうでありませう
か。言道はこんな歌を残してをります。

春くれて永き日さびし山彦も獨りごちだにけふはせよか
し 暮春山家 中巻

わりて見るたびに面白しいつゝも竝べるさまのおなじ

さや豆 豆 下巻

かう言ふ微笑ましい歌は童心を言へませんでせうか。更に

また

知らぬまに生ひいでゝ門に竹の子のそこにて高くなる景
色かな 笋 中巻

はさうでありますか。私はこの歌を讀んで、良寛が竹の
子の成長をあはれんで縁側に穴をあけてやつた話を思はず
にはゐられません。恐らく、この竹が門でなく軒下にでも
はえたのなら、言道もまた穴をあけたらうと思像するの
は決して無理でも唐突でもないを考へます。さうして、こ

の歌のある故ばかりでなく、言道は實に良寛に近い性質の

來なまし

思來世 下巻

人であつたことが考へられます。前に一茶をひきあひに出
しましたが、言道には一茶のやうな氣毒なきげくしさは
見當らない、飽くまで平和な性質であつたらうと思ふので
あります。

こ言ふ歌はそれを證して餘りあるものでありませう。
つまり、かう言ふ本質が言道をして子ぎもの生活を深く
觀察させ、本當に子ぎもになりきつた子ぎもの歌を歌はせ
たものと思ふのであります。

しな高きこもねがはず又の世はまた我が身にぞなりて

暖かに溢れる日の光のもとに、お母さん方に連れられた子ども達の嬉しきうな顔、顔、顔。萬國旗、花、リボンで飾られた
幼稚園の外。藤棚の下、ばらのお家、ブランコの邊には可愛い、お提灯のさがつたお店が出来てゐる。「子ども達が一生忘
れない一日でせうね」と言ひ合つた日でした。

十一月二十九日、東京女高師落成記念祝賀會に、附屬幼稚園でも、園兒とその保護者に、舊職員、保育實習科卒業生その他
の方々をおまねきして盛な園遊會が催されたのであります。模擬店の開かれてゐる間に、童話、童話劇、樂隊、大神樂等の
餘興も賑やかで、青くすんだ空には「祝落成」のアドバルーンが一ぱいにふくらんでゐました。暮れようとする本校グラウンド
に六千餘の日の丸の波が一齊に陛下と學校の萬歳を叫んだ時、その日の興奮は華やかに高潮してゐたのでした。

あんなに子ども達が喜んで……。私達はそれが本當にうれしいことであります。

(ひかる)

對話

『仲直り』

登場人物

うさぎの兎太郎

かめのかあ子

いたづらぎつねのこん太郎

たぬきのボン子

百せう

場所

一 山の中

二 畠の中

曾根

翠

(九年九ヶ月)



一 山の中

たぬき「うさぎ、かめがでゝ来る。

かめ「ねえ、ボン子さん、うさ太郎さん、さうしてこん太郎さんはいけないのでせうね」。

うさぎ「本當にね、きつこおはたけをあらしたり、お百しやうや、僕たちをいぢめるから、みんなからきらはれるのだよ。そして、るはるしね」。

たぬき「あのくせをやめてくれないかしら」。

一同「困つたなあ」。

かめ「さうく、お百しやうにたのんで、をさし穴か、わなを作つてもらひませうよ」。

一同「それがいゝく」。

かめ「そんなら、みんなでかけ足でゆかない？」

たぬき「だめく、私おなかぢやまになつてはしれないわ。それにかあ子ちゃんだつてのろいで

せう。それをかんがへなきやあだめよ」。

かめ「あつ、さうだつたわ。そんなら兎太郎さんにいつてもらふわ。ねえ兎太郎さん、お百しや

うの所へいつてきてちようだいな」。

うさぎ「うん、では、いつてくるよ」。



うさぎかけ出して行く。しばらくたつて、

かめ「私なんだかしんばいだわ」。

たぬき「もしお百しやうがきゝちがへてうさぎじるをつくつたり、こんたらうにあつてひきいめに

あはされたんじやあないのかしら」。

そへうさぎが息をきらしてかけこんでくる。

一同「ぎうしたの」

うさぎ「お百しやうのところでをこし穴をつくつてもらつたんだよ、そのかへりにこん太郎にあつ

てね、をひかけられたんだよ。あゝこはかつた。ほら／＼やつて来たよ、はやくかへらう」。

一同「さやうなら」。

うさぎ「たぬきは上手へ入り、かめは下手へ入る」。

こん「なあんだ、みんなよわむしだなあ。あははははは」。

こん太郎はいる。まく。

二 島の中

こん太郎いつものこぎく島をあらしに來た。ぶたいの上へを歩く。さう／＼をこしあなにかかる。

こん「さやう」



こ悲鳴をあぐ、うさぎ、たぬき、かめ、でゝくる。

一 同「やあい〜、ばちがあたつたんだぞう」。

みんなをこしあなのまはりを、ごりながらまはる。

こ ん「ゆるして下さい〜。もう悪いことはしませんからだして下さい」。

こん太郎泣く。こん太郎を出してやる。

こ ん「ありがたう〜。みんな仲直りませう」。

たぬき
うさぎ「それがい〜〜」。
かめ

一 同「ばんざい〜〜」。

そこへ百しやう出る。

百しやう「あゝあゝ、やつぱり友達はいゝものだ、みんな仲好くするにかぎるな」

百しやう退場。

唱「うれしい〜うれしいな、みんなで〜仲直り。たのしく〜あそびませう」

くりかへし、唱ひながら入る。幕。

終り



『系統的保育案の實際』解説（九）

生活訓練	……………	倉橋 惣三
誘導保育	……………	菊池 ふじの
唱歌遊戯	……………	村上 露子の
談話	……………	小島 新庄よしの
観察	……………	小島 光子
手技	……………	及川 ふみ

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。

昨年七月以來、既に多大の部數が、全國保育界に普遍し、熱心なる保姆諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的の保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼兒の生活に出發し、生活に歸着する、生活系統としての新らしい保育案であるところから、その實施に於ても新らしい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠なくない。

本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。説いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熱せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ふてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものの立て方にある。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれることなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないであらう。

年少組、第三保育期

——満四歳、満五歳——

生活訓練

第一週

幼稚園の方からいへば、第三保育期第一週も、如何にも
嚴めしいことであるが、幼児の方としては、まだお正月の
つゞきである。元日に式をしない幼稚園もあらう。園とし
ては式があつても、のんびりミ缺席してゐる子もあらう。
兎に角、八日こそ新しい年最初の幼稚園だ。お目出度
うぐぐのつゞきだ。早速生活訓練も早過ぎるまいふ人があ
るかも知れない。しかしそうじゃあない。オトソのホロ酔
ひ機嫌で開園してゐる譯ではなし、きこだつて生活あるミ
ころ、いつだつて訓練ありである。えッ、なんですッて、

訓練はあるべきでせうが、お正月早々こわい顔をするのは
いやですつて。だから困る。訓練ミいふミ、すぐこわい顔
を考へてゐるんだから困つて仕舞ふ。そりや、おゑんまさ
まも御訓練なさるだらうが、ゑびすさまだつて、だいこく
さまだつて、にこく顔でいくらでも訓練をなさる。それ
ミころか、私はいつでも思つてゐんですが、幼稚園の先生
方が時々するミこわい顔をしてゐるから、却つてほんまう
の訓練が出来ないのだ。ミころで、お正月早々、ミなただ
つて、こわい顔をしてゐる保姆さんがありますまい。そ
の、やさしい、いッお顔で一つ訓練が願ひたいのである。

先づ第一週の初めにお辨當のこゝが出てゐる。お書き初めかと思つたら、お食ひぞめかなんて、そんなこゝをいふ

人の方がいぢぎたないのである。家庭だつて先づお雑煮に明けましたお正月である。幼稚園だつて、お辨當から新年の訓練が始まるに不思議はない。こゝいつて、何も第三保育期になつて、お辨當が始まつた譯ではなし、これまでだつて、いつでも訓練されて来たこゝである。たゞ「皆さん、年齢が一つ大きくなつたんでせう」といふこゝで、好機逸すべからずと、再訓練をするだけのこゝである。こゝころで、前にも解説したこゝがあると思ふが、食事といふものは、生活訓練として最も都合のいゝ機會である。いくら形式をやかましくいふこゝも、——訓練には、さうしても多少の形式方面を離れ得ない——全くの抽象形式になつては仕舞はない。女學校なごでするから膳、から茶碗、から皿のお作法と違つて、こゝではちやんご中味がはいつてゐる。食慾といふ生活的最具體事實性のものが基礎になつてゐる。さう形式だつて、見ても、生活を離れないであらう。尤も、食事中あまりやかましくいはれては、折角のお辨當

の味が少しはへるかも知れない。訓練者として氣をつけなければならぬのはその點だけである。

第二の事項として、双六なご勝負ごき遊びに就ての態度といふのがある。之れも亦至極くお正月らしく、いゝ機會をつかまへてあると共に、勝負さいふ、食慾と相併んで人間生活を支配してゐる本能を基礎にしての訓練であるこゝろに妙味がある。さて、勝負遊びでさういふ點を訓練すべきか。自分が勝つて人を負かすこゝになる。それは無理矢理なこゝである。よろしく、自ら負けて人を勝たせなければならぬ。さうしてこそ高尚なこゝである、そこまで行つたら勿論大變である。勝負ごきは勝つ心を養ふものである。訓練さしても、勝りたい心を、さうまでを強めるものでなければならぬ。殊に、さうかするに、負けても平氣さいつたやうな、本能缺陷兒童があつて、それが如何にも理想の勝負者のやうに見られたりする。以てのほかの話である。しかも、勝つには勝つの作法もあり、自ら勝つのはいゝが、人を負けさせるのを以て快とする方は少々輕くしたい。さいふさ甚だ譯の分らないこゝに聞えるが、勝ちの

快感ミ、負かしの快感ミは明らかに區別されるものである。それが一方だけさいふこは理論上あり得ないこさいふとして、經驗の事實ミしては、さいふが主になるかの相違はあり得る。それが性格にもよるのであり、性格にもなるのである。勝負の生活訓練は一つに此點を以て基本原理ミするものこいつてよい。

勝ちたさが過度に主になる時、づるさも起る。勝負心の訓練に對して、勝負法の訓練である。正々堂々なんていふまでもないが、勝負はさいふこまでも、初めの願ひ、後の結果で、途中は途中そのものゝ楽しみでありたいのである。さて、此訓練、さうしてするかさいふこになるミ、先生が傍觀、監視者に立つてゐるだけでは、さいふも、ほんさいふの處までいかないであらう。先生もいつしよにその遊びの中へはいつて、見事な勝負振りを見せてやるのが一番いゝらしい。但し、それがながく六つかしい。

誘導保育

第二週

之れは要するに、怪我をしないためミ、風をひかぬためミ、聊か、用心本位の事項である。ミこころで、かういふこミは、そのわけを餘り強く言ひきかせたり、殊に、その怖るべき結果を強調しすぎたりするミ、幼児が臆病になつて仕舞つて却つていけない。斯ういふこミこそ、實に實に、習慣を習慣ミしてつけさへすればいゝのである。

第三週

道路横斷の注意ミは、大都市幼稚園の場合である。田の畔路を蛙ミいつしよに横切り越すのに、別に大した注意もない。蛙の方を踏みつけないやうにすればいゝのである。それが大都市の道路では、逆に、幼児が蛙の位置にあつて、うつかりしてゐるミ踏みつぶされさうになる。——あゝあゝ、まだ小學校へも上らない幼児に、こんな苦勞をさせなければならぬのか。それも、幼稚園さいふ極樂園へ通ふのに。あゝあゝ、大都會の道路は恐ろしい地獄道だ。

第一週

お正月

第三學期始業の日、八日に子供達に會つて見るに、ハット思ふ程に子供達の顔は晴れやかで輝しい。眉毛も、もみ上げもきりつみ剃られて、丸でお正月からぬけ出して來たかのような可愛い顔、顔。昨日までは、長袖の着物も着て居たであらう、羽織袴でお玄關でお名刺等受けた男の子もあるであらうやうな面持。

松の内が過ぎたから言つて、このまゝお正月を流してしまふ事等、到底も出來にくい心持で一杯だ。

さうだ、遂、こないだの暮には、幼稚園も世間並に、年の暮が押し迫つた様な忙しさが満ち満ちてゐた。羽子板の繪も、子供達の手で、二十四日までに出來上らせ度い、今學期のお仕事も二十四日までに型をつけ度い、まゆ玉も作り度い、ぬりゑもお正月前にして置くものを仕上げ度い、と思ふ心持で、遂、子供等の心までも忙がしいものにしてしまつた様だつた。

このまゝにお正月を通り過させてしまつては、暮のあの

慌しさから、一足飛びにお正月氣の無くなつた所へ高飛びした様な工合で、何みなしにつまらない氣持がする。そこで、話合ひの中に、又は幼稚園でのお仕事の中にお正月のものをいづばいに加へて、今から、子供達と一緒に幼稚園でのお正月を満喫しやうとする。

歌留多、お手玉、双六等の遊び道具を作る事にする。

それからお正月には、この家にもいろ／＼の趣向を凝した新しいカレンダーが集まるので、それ等から受けたであらう刺戟を頼りにカレンダーを作る。

お正月に關聯しての話合ひ、製作合ひ、家庭に於ける年中行事の興味も無關係なものはないので、期待効果は自然、行事へ對しての興味の促進も云ふ事になり、又行事に對して有する觀念の整理もなる事が多い。お互に話し合ふ事に依つて、發表力の養成もなる事は勿論である。その他、この主題に關係あるものゝ觀察に、活々しさを呈する事は、事實である。その他、双六やカレンダーの製作に當つては、數觀念の初歩觀念養成も云ふ事にもなる。

繼續作業時間は、今週も來週の二週間。

カレンダー

今週はカレンダーの製作をする。カレンダーには、一枚に一ヶ月分のが記入してあるもの、又一枚々々めくつていくものとの二通りがあるが、この組は年少組であるから、一枚つゝめくつてゆく、簡単な分り易い方にしようと思ふ。

作り方

一日一日の流れ、曜日の關係等は、大人な分りのいゝ子は、分つて居るかも知れないが、まだはつきりしない子も居るから、或一日、今日と言ふ日を土臺にして何月何日黒板に板書する。そして日の下に、今日の曜日を片假名で書き入れる。明日は何日で、何曜日と、子供達と一緒に考へながら記してゆく。そして一月分をみんな三十一日まで書く。三十一日の次は二月一日になる事を教へ、前の様にして二月分も板書する。二ヶ月分位をゆつくりと子供達に考へながら書いたら、大抵は日や曜の進みが分つて来ると思ふ。そして、半紙半分位の大いさの紙に、一月分のを一日から三十一日まで、日曜日をみんな代る々々代り合つて、はつきり分り易く書く。日曜は赤の紙に、土曜

は青の紙に、又祭日には國旗を交又さしたりして、世の一般がする様な事をするといふ。同様にして二月分、三月分、四月分……十二月分を拵へる。そしてみんな一年分が出来たらしつかりを綴ちて、紐をつけ、保育室の、みんなから見えるところに下げて置いて、毎日々々めくつていく。

第二週

動物双六

今週は動物双六を作る。共同で自分の組の一枚作つてもよいし、又各々一人に一枚と言ふ様に拵へてもよい。

何でも好きな動物を描かしめ、色を塗らせ切り抜かせて大判の模造紙に、双六らしく貼り、上りや出發、戻りや、停頓等を拵へて、子供達手製の双六を作るのである。さいころは、粘土で作つてもよいし、店で賣つてるのを用ゐてもよろしいだらう。

出来たら先生も一緒に入つて盛んに遊ぶこゝである。

第三週

旅行

東京では一年中での一番寒い時期である。昔から風の子歌はれてる子供達ではあるが、この頃のお寒さには少々辟易してか、外へ出る子も減つて来る。又保姆さしても、日盛りの日當りのいゝ處でならかまはないが、朝の中さか、薄曇りの日等には、靜かに室内で遊ばせ度いとも思ふ。靜かな室内遊びと言つても、羅漢廻しも、ハンカチ取りも椅子取りも、そう長續きはしない。そこで、靜かな遊びで、しかも興味の長續きのする誘導保育——旅行ごつこを案出したわけなのである。

停車場を中心にしたいろいろのもの——改札口、切符賣場、トランク、驛の商品——そう言つた様のものを拵へて、旅行ごつこをして遊ぶのである。よく子供等は、椅子を向ひ合ひに二列に並べたり、二つづゝを順々に後ろの方まで續けて並べたりして、汽車ごつこをしてゐる。前の方に少し大型の椅子をひつくり返して置いて機關車と呼んで

威張つて遊んでゐるが、あれを少し誘導してやるのだと言つていゝ。

これの期待効果は、社會生活の興味、それから觀察、製作。

繼續作業時間は二週間。自由に思ひ出した様に遊ぶこゝは以後しばらく續くが。

切符、トランク作り

此週は、切符ミトランクを作る。切符は厚紙で作り、トランクは大型のボール空箱を利用する。空箱の四隅に皮（賣つてゐる）を貼り（二又の紙にて）同じ皮で取手等をつける。いかにもトランクらしくなる。四隅の皮や取手を切る位が子供達の仕事で、やはり大人の手傳が入用である。出來た人から、もう、トランクを持つて旅行ごつこをして遊んでゐる。

唱歌遊戯

第一週

唱歌 二回

ユキ(エホンシャウカ)

雪景色を眺めながら歌ふこゝが出来たら結構だ。

遊戯 三回

ユキ(記事参照)

雪の日の子供たちの喜び様は又格別である。じつこしてはゐられない嬉しい氣持を、其の儘表はして、全體を軽いランニングステップで終始してゐる、氣持のよい動作である。

新たな年を迎へて、うれしい楽しい氣持をそのまま遊戯の上にも表はしたいと思ふ。

第二週

唱歌 二回

すゞめ(大正幼年唱歌)

遊戯 三回

すゞめ(記事参照)

無邪氣な可愛い遊戯。

第三週

唱歌 二回

ダルマサン(エホンシャウカ)

だるまさんのお玩具を持つて來て、ころんでも起き、ころんでも起きする面白い様子をよく見せておきたい。

遊戯 二回

ダルマサン(記事参照)

うんこにらんで、うんこかんで、力強く動作をするころに面白さがある。

第四週

唱歌 二回

マメマキ(エホンシャウカ)

遊戯 三回

マメマキ(記事参照)

豆撒きは昔ながらの子供たちにも親しみのある行事だけに、この遊戯は大變子供に親しまれる。鬼がコソコソに逃げて行く様子だの、福の神がニコニコはいつて來る様子をなかく上手にする。

椅子こり(ゲーム遊戯)

殊に寒い日や、雨でも降つて外へも出られない日には、ゲーム遊戯でもして、楽しく皆で遊ぶべきよい。椅子こりは皆さん御存じの古くから傳はつてゐる面白い遊びの一つ。お部屋からめい／＼の椅子を持ち出して、遊戯室に圓形にならべてこの遊びを始める。いつも幼児の數より一つ椅子を少くして、ピアノに合せて行進する。(時には馳け走、スキップの曲等をませて)音が止むと大急ぎで腰掛ける。席のない人は外へ出る。この様にして一番おしまひまで誰が残るか?

ユキ 戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 一列圓形を作る

オホユキコユキユキコンコ

圓周に沿つて右へランニングステップで進む。(十六歩)と同時に手は兩掌を上にもむけ體の前にあげ左右交互にあがりさげたりし、顔は上にもむけ上から落ちる雪を掌の上にもむける様子をする。

オヤネモ

圓の中心に向つて、兩手を體の兩側から大きく前上につて来て屋根の形を作りながら、やはりランニングステップで四歩進む。

オニハモ

上に屋根の形にあげた兩手を斜横後にひらきながらランニングステップで四歩後進元の位置に戻る。

ユキコンコ

兩手を高く上にあげキラ／＼動かしながら次第に下におろすのと同様に自分の周圍を一まはりする。

スズメノオヤドモ

兩手を左右にあげ羽の様に上下に動かしながら圓周に沿つてランニングステップで八歩進む。

ユキコンコ

前のユキコンコと同じ。

すゞめ

戸倉ハル氏振付
大正幼年唱歌集

準備 一列圓形を作る

一、アチラノ

皆圓の中心をむく、右手を斜右上にあげ人指ゆびでゆび

さす(手を軽く二回ふる)顔はやはり斜右上にむけそちらを見る。

ヤネデ

拍手三回する。

チュンチュンチュンチュン

アチラノミ同じ動作を左に行ふ。

ナクヨ

拍手三回する。

クチラバアケテゲンキヨク

拍手しながら自分の周囲を一まはりする。

チュンチュンチュチュチュチュチュン

しやがみ、両手を胸のまわりに組み頭を、右左右左まわりかたむける。

サエツルヨ

しやがむだま、胸に組むでるた手を斜後下にのばし軽く羽ばたきの如く動かす。

コチラノヤネデ

一番のアチラノヤネデと同じ。

チュンチュンチュンチュンナクヨ

一番と同じ。

マケズニナクヨオモシロク

両手を掌を上にして體の前にひちをまげてあげ兩掌を同時に上に元氣よく顔の邊まであげ又すぐ元におろすこれを八回あげたりおろしたりしながら自分の周囲を一まはりする。

チュンチュンチュチュチュチュンサエズルヨ

一番と同じ。

ダルマサン

戸倉ハル氏振付
エホンジャウカ

準備 二人づゝ組み、圓形又は列なる。

ダルマサンハエライ

二人向ひ合つて立ち、各々胸の所に高く腕ぐみをして顔を見合ひながら元氣よく大きく左足を一步後にひく、次に右足を大きく一步後にひく、この時體重は何れも後の足にかゝる。

コロンデモオキル

二人さもランニングステップで前進し左側通行で位置交

換して向ひ合ふ、最後のまゝころでは兩膝を揃へてやゝ深く曲げすぐ又のばす。

コロンデモコロンデモマタオキル

二つの足を揃へてまゝながら自分の周圍を一まはりする。この時もやゝ深く膝を曲げる。

コロンデモコロンデモ

又ランニングステップで前進し左側通行で位置交換しはじめの場所に戻る。

ダルマサンハエライ

向ひ合つて各々腕ぐみをし威張つて左足を一步前に出し、次に右足を一步前に出す。これを二三回くりかへして行ふ。

マメマキ

戸倉ハル氏振付
エホンシヤウカ

準備 二人づゝ組み、圓周又は列を作る。

一、オニハソト

二人づゝ組むだ一方の者をA他をBとする。向ひ合つて立つてゐる。Aは先づ兩手を前にあげ掌をBの方にむけてBをおす様子をしながら三步Bの方にすゝむ、Bはお

される様子をしながら拍手して後に三步さがる。この二人の動作は同時に行はれるのである。

フクハウチ

今度はBがAを押す。動作は前と同じ。これで元の位置に戻つたことになる。

バラバラバラバラマメノオト

二人さも一方の手で豆の入物を持ち他の一方の手で豆をまきながら自分の周圍を一周する。

オニハ

左手を頭につけてゆき角を作るま同時に左足を強く一歩ふみつける。

コツソリ

右手で角をつくり右足を強くふみつける。

ニゲテユク

二人さも小さくかゞみこつそり左側通行で位置交換する。角をつけたまゝ。

二、オニハソトフクハウチ

バラバラバラバラマメノオト

位置交換したまゝで一番と同じ動作を行ふ。

ハヤクオハイリ

両手で大きい袋の口を持ちそれを肩にかつぐ様子を重さうにすると同時に左足を強くふみつけ次に右足を強くふ

談話

第一週

お正月について

年始、門松、お飾り等の實際に行はれてゐる時は、まごの幼稚園でもお休みで、一月八日に始る頃は、もうそこにはお正月の何の飾りもないわけである。そこで「お正月について」まごの材料を扱ふならば、これから冬の休みにならうとする終りのころ、よく子供に話しておいた方がいゝと思ふ。みんなを集めた時に、それは鼠の餅引を話したあきでもよし、すつかり歸り支度をして先生の挨拶をしづかに待つ、あのさよならの前でもよし。

「もう是だけ寝るごお正月が来ますね、今度は幾つにな

みつける。

フクノカミ

一番と同じ位置交換。

るでせう、誰さんは？、それからあなたは？」

「順々に一人づゝきいて返事をさせる。七つのもあれば六つになる子もあらう。その上で、その六つになる、或は七つになるお正月について、

「お正月には新しい年が来るんですよ。そしてみんな誰でも一つづゝお年がふえて、大きくなるでせう。ですから、そのお祝ひに、まごのお家でも日の丸の旗を出して、御門には松を立てたり、お床の間にもいろゝお飾りをしますよ。みなさんのお家のお飾りをよく見ておいて下さいね。それから、みんなお家の人は大變忙しいんですから、お手傳ひもませうね」

「こ子供と約束しておく。こゝろあるお母さんならば、この子供にも出来る何かを見つけてきつと一緒の手傳はせるであらう。切つたお餅を運ぶさか、お臺所に人をよびにゆくお使ひさか。」

これは幼稚園でもよくあるこゝで、子供相當の仕事があつたら、つとめて手傳はせたい。大人だけでしてしまふ事は、その用は早く済むけれど、それで養はれてゆくこゝろの基礎を作る機會を失ふ遺憾が往々ある。先生が粘土板を一人で一度に運ばうとする時、一寸考へて子供に二三枚づつ持たせたり、植込にはいつた落葉を一つづつ取らせたり、するさ、當人も仕事をしたさいふ、淡いながらもそこに喜びを持つ。

さて、年の暮の支度ばかり書いてゐるが、いよく是からが一月の保育案。ついでこの間の楽しかつたお正月の数々の思ひ出。心にのこつてゐるめいゝの楽しさを話合によつて、一通りみんなのを聞いてやる。この頃になれば組の先生へは發表をしない子は無いであらう、もし何にも云へない子があつたらそれこそお正月であるから、

「一つお年が大きくなつたから、もうお話が出来ますね、それにもうぢき大きい組になるのよ、お話が出来ないで、大きい組になれないさ不可ないでせう、お餅は食べたい。幾つ？」

なき返事を促す。この時直ぐに效を奏しないでもいゝ。かうして、子供の方の話を聞いてから、次には先生の方からお正月についてのいろいろを話してきかせる。結局この家でも大差のない行事であるから、さの子にさつても、先生の話は、経験の一つづつを聞いてゐるやうなもので、あゝ、私の家の門にも大きな松を立てた、お床の間にもお飾りをした、お餅も食べた、お正月にはこんな事をするのださいふ、子供の内部におこる朦朧としたこゝろの動きを、先生の話によつて、はつきり整理してゆくのである。

第二週

國旗の話

年少組では、わが日の丸の旗について多くを語りたい。こは云ふものゝ、幼稚園でこの旗の由來や、尊さを述べるこゝも出来ない。それで次のうたを讀んできかせる。同時

に幾度も繰り返して。

ひのまるのはた くらほじ

われらの こつき は

ひのまる の はた

たかく たてよ

たかく たてよ

あさひの いろ を

あかく そめて

あかるい そら に

ひらひら ひら ミ

かがやく ひかり

ひのまる の はた

たかく たてよ

たかく たてよ

われら の こつき

ひのまる の はた

(コードモノクニ

大正十五年第五卷第一號掲載)

年長組になつたらこれを吟誦させる。

七匹の仔山羊(幼兒演出)

幼稚園の庭で或る日こんな事があつた。

「サア、葉つばをたいてたき火をしようや」

子供みんなですゞかけの落葉を集める。

「なか／＼火がつかないね」

一人が、持ち出して來た燧石で、カチ／＼やつてゐる。

「こゝでおぎろうよ」

「僕もおぎるよ」

鬼が出て來たミこころらしい。

これは、つい近ごろ、落成祝賀會の折に見せて貰つた劇を、そのまゝ子供が自分達で演じてゐるミこころであつた。このくり返しをしてゐるばかりで別に大して發展するわけでもなく、云はゞあそびで演じてゐるので、劇さまではいひ兼ねるが、かうして、先生の指導なしで、自分達だけで出來得る場面だけを演じて遊んでゐるのであつた。

かうして自分達だけで遊んでゐるのは、まごみに無理が

無くて、面白そうである。けれども、この場合はほんまうに自分達の出来るところだけで終つてしまふ。折かく、かういふ氣持を、演じて見たいその心を、そのまま萎ませてしまふのも惜しいと思ふ。そこで、最も演出のし易い七匹の仔山羊を選んで、始めは先生の指導のもまに演じさせて見たのであつた。

この話は六月に一度してあるが、幼児演出するにつき、その日の前日位に再び話しする。始めはやはり先生が中心になつて、ごの役も先生が殆んどするつもりでなければ出来るものではない。

「あのね、お話できいたでせう、狼と山羊さんのお話。あれ、みんなでお芝居して見ませう、始め、先生がお母さんになりませうね、誰れがお姉さんにならない」さきいて見るまゝ、申出があるから、順々にきめてゆく。藥屋、粉屋は誰もなりたがる。いろいろの點を考慮して配役を先生が決める。

幼児演出に大事なのは、臺詞を出来るだけ短くして筋を通らせること。時によればどこでもいゝ場合がある。言

葉が長ければ、幼児演出は不可能に終る。先生の演出による人形芝居はこの點は、臺詞が大いにちがふ。

場所 保育室内で、腰かけを一方に寄せて、ひろく場所をこつておく

道具 長椅子

衝立(小)

鉢、段ボールで作つた大きいの

大ふろしき(無地)

手かご 等

七匹の仔山羊連は、長椅子にズラリ腰かけてゐる。お

母さん山羊が(先生)この前に立つ。

母「これからお母さんは、町の方にお使に行つて來ますよ。

パンや、バタや、りんごや靴下を買つて來ませうね」

仔「それからお菓子もね」

母「ハイハイ、あゝそうく、忘れてゐた、あのね、お母

さんの留守に山の方から狼が來るかも知れませんよ」

仔「おう怖い」

母「狼のお聲は太いし、お手々は眞黒ですからね、お家へ

入れちやいけませんよ、ぢや行つて來ますよ」

仔「行つていらつしやアーい」

お母さんは籠を下げてかくれる。

衝立を仔山羊達の前におく。

狼、衝立のかげにしゃがむ。太い聲で、

狼「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

姉「お母さんはそんなきたない聲ぢやありませんよ」

狼、藥屋（少し離れて椅子に腰かけてる）に行つて、藥

をのむ真似する。

狼「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

姉「手をお見せ」

狼、衝立の上からニウツミ手を出して見せる。

姉「お母さんのお手々はもつこ白い」

狼、粉屋で粉をぬるまねをする。

「トンく、トンく、お母さんが歸りましたよ」

観 察

一同「ああ嬉しい、お母さんよ」

衝立を横にやる。

狼「ワァーツ」云つて、仔山羊達を追かけ乍ら、狼は一緒

に室のすみに隠れる。それに大きい風ろしきを被せてお

く。仔山羊一匹だけ長椅子のかげにかくれる。

母山羊歸つて來て、これを見て泣まね。仔山羊ミ大きな

鉢を持つてゆき風呂敷を見つける。鉢で切るまねをする。

中から一匹づつ、お母さん、お母さんミミびつく。

幾度か繰返してゆく中に、先生の手傳ひが無くても、出

來るようになるミいよく面白くなる。なるべくきの子に

も役が當るよう三度位配役をかへて演出する。従つて見物

にまわる多數があるわけで、是等は椅子に腰かけて、靜か

に友達の演出を見物する。あく迄も見せるので無く、遊ぶ

のであるからその意味で、雨の日の室内あそびにぞくいと。

第一週

カレンダー

カレンダーを作るについて種類をいろいろ用意してみんなの作り方が相談し乍ら観察させる。(誘導保育の欄参照) カレンダーにかいてある字、それは何をいみするかを話す。一月から月を追ふて、その月々の行事なき思ひ出させて、カレンダーにかいてあるこゝを理解させる。

國旗

今更らしくこゝに掲げる迄もない。日の丸はよくみてる筈であるが一度正しくかゝしてみる事もよい。又日の丸だけでなく、他の名の親しい國の旗も繪によつて観察させる。

第二週

みかん(前出)

第三週

霜柱

お庭は霜柱が毎朝一ぱい立つ。さくくふみくたく音こ

感の快さを先づ味つたらその一片をまつて細い氷の柱の集つたものであるこゝをみる。さうして出来るかをきかれても確實にわかり易く答へられる様に考へて置かう。我々にしても斯くも美しく、自然の一夜の仕事に感心するものの子ども達はさんなにかふしぎであらうから。

水仙

ぬりゑをする時切花を出来るなら用意して観察させつゝぬらせる。殊に花びらの數、特徴ある副冠(花の中のきいろい盃状のもの)を注意しやう。石蒜科植物である。

第四週

汽車(繪による)

繪による観察は前にも度々出て來たがこれでは子ども達に實物さしても親しみ深く、我々以上によく観察してゐるものであるからごく新しい型のものも用意し、種類も多くして、完全な可成り科學的な繪をもつて來て観察させた方がよい。

冬の芽

冬でも木は枯れてゐないこき、もうこんな立派な葉を用意してゐるこきを葉の落ちたあきをみたのを思ひ出させ乍

手 技

第一週

自由畫 一回

ぬりゑ 一回

フクジュサウ

お正月の鉢植の福壽草があれば實物を見てぬらせる

製作 カレンダー

用紙は畫用紙でも、模造紙でもよい。又カレンダーの作り方も、日めくりでもよいし、月カレンダーでもよい。

幼児一人／＼の所有になるやうに、各自に一つ宛させてもよいし、又お部屋用の一つ作つてもよい。

1より31までの數字を一枚に一つ宛かいてその一枚一枚に數字をよけて自由畫をかゝせる。各自が一つづゝのカレンダーを作るこきは普通のカレンダーの大ききでよいの

ら觀察させる。種々な木の芽について比較する。自然のたゆみなき營みを觀察させ度い。

であるが、お部屋に一つ吊す様にするには一枚の紙の大きさは畫用紙十六切位の大ききにするこよい。そしてそれは一枚一枚めくらないで後へはねのけておく様につくる。1から12までのものを一／＼りこし、又1より31までを一／＼りこして、二／＼並らべて前者は月をあらはし、後者は日をあらはすこきゝする。

第二週

自由畫 動物

参考用として、動物の寫眞、動物畫なき保育室に用意してよくこれを觀察させる。幼児の自由に種々の動物をかゝせて見る。

ぬりゑ ウメノモヤウ

ウメノモヤウは色を自由にぬらせる。

製作 双六 三回

双六は花づくしでもよいし、動物づくしでも、乗物づくしでもよい。準備として自由畫で双六にするものをかゝせて見なければならぬ。年少組であるミ誰れでも何でもの畫を充分にかくさいふところまでゆかないかもしれないから一組の幼児のかいたものからましまつたものより出して一枚の双六にする位である。たまへば動物双六をつくるミするミ一組の幼児が皆でいろ／＼の動物をかく、その中から象は象であつめ虎は虎であつめておく。その象だけ切りぬいて集め、虎だけ切りぬいて集めたものを一つの輪廓の中におさめて大きな臺紙にはりつける。動物の種類を集つただけ四方にならべる。

第三週

缺仕事 水仙

水仙の花を花瓶にさして保育室におく。花は白い模造紙

でもよいが、水色の模造紙を裏かへしにしてはつてもよい。花瓣が六つに分れてゐるのなごはよく觀察させてつくらせる。

製作 旅行用トランク

洋服のあき箱などの大きなボールの空箱を利用してつくる。さげるところだけ手をつけレットルなごはるミ面白い。一組に二三個出来ればよいのである。

第四週

自由畫 汽車 二回

誘導保育案による旅行ごっこ遊びをするので汽車の觀察を充分にしておいて(繪本)汽車の繪をかゝせる。

缺仕事、切符 二回

赤、青、白の切符を數十枚切つて、驛名を片假名でかゝせる。

粘土 自在 一回

年長組、第三保育期

— 満五歳、満六歳 —

生活訓練

第一週

こゝでは、相當年長組らしい作法が要求されてゐる。それは一面には、年長組ならこの位の要求をしてもいいふこゝに、共に、元氣旺盛の年長組といふ必要もある。その上、やがて、小學校に上るさいふ、目の前の必要もある。その内容は、一々いふまでもあるまいが、扉の開閉のしかた、さいふこゝに就ては、保姆先生方にもよく御注意願ひたい。何も、ドタン、ガタン、バタンばかりを論じてゐるのではない。閉ちてあつたのを、開いて出て、そのまゝあけつばなし。閉ちはしたが、半閉、八分閉さいふ類。それからもう一つ違つた方面では、開いての出入に、他の人との

ぶつかりを氣をつけるこゝ。ドスンと先方の出鼻を押して置いて、御免遊ばせでは濟まされない。少しも存じませんで言つて、さも不可抗事のやうに辯明するが、戸の向ふの見えないのは、いつだつてきまつてゐる。同時に、その見えない板戸の向ふに、人がゐるかも知れないこゝもきまつてゐる。そこを、少しも存じませんで、辯明にならない。第一、先方の出鼻位ならいゝが、その鼻が高かつたら、戸をぶつけて折つて仕舞ふ危険がある。

濡れた靴下、手袋をそのまゝ用ゐるぬこゝ。之れは極めて大切なこゝである。但し、此の訓練は、子きもへか、先生へか、そこが少々あまいのやうだ。そんな場合は多分雨

の日であらう。又、季節柄、雪の日でもあらう。そんな時、この點の注意は、幼児を受けこる保母さんの、何より第一の注意である筈である。たゞし、幼児の方にもよく訓練して置いて、保母さんがどんなにうつかりしてゐる時でも、幼児の方から、先生、こんなに濡れたの、このまゝでは衛生上悪いのねと言はせるやうになつてゐたら、最も便利である。

第二週

前にも度々片づけたこみがあると思ふから、こみでは、あらまた散らかしたのこみふだけに止めて置く。

第三週

通園上の注意として、電車内の作法が擧げてあるが、これは社會作法訓練に屬するこみで、年長組には是非要求したいこみである。たゞ、園外のこみで、先生としては、懇

懇として申し聞かせるだけで、自ら直接訓練するこみの出来ないのが物足りないが、日本人の一大缺點が、社會的作法だこみふこみは、外國人よりも日本人としてよく氣がついてゐるこみで、之れは早くから、いゝ習慣をつけて置く必要がある。或は、誘導保育の一主題として、交通、汽車、電車、こいつたものをこり來つて、その期待効果の一つの中へ、社會作法こみふこみを置くのもいゝこみであらう。

第四週

前にも言つたこみのある通り、之れは是非つきたい習慣である。家庭こよく打合はせて置いて。——幼児の生活訓練が幼稚園だけいくら心配しても、家庭こ協力出来ないこみ決してうまくいかないのは、敢て、手を洗はせ、うがひをさせるこみだけには限らない。

誘導保育

第一週

動物園

大型の木の箱を利用しての動物園は、本来ならば戸外のものであらう。向ふの木立の下に、又はこちらの隅の平地に、キリンや小山羊を置いてみ考へて、その様子を目に浮べるご、たまたまなくいゝものになる。併し、實際は、風雨に曝されても變色しない塗料で價格も低廉で言ふものもないし、云つて毎日大勢の動物を出し入れするのも容易な事でなし、そんなわけで遂、これも室内になつてしまつたわけだ。併し、お天氣のいゝ日等、時折外へ運び出して、思ふさま子供達にいじらせるのは誠に結構で、是非やつて欲しいと思ふ。

子供達が、今迄一度も木の箱を利用した動物を見た事が無いならば、先づ先生が見本に、キリンでも熊でもいゝから一匹拵へる。そして、こゝにいふ動物を澤山拵へて、動物園を作りませうね、といへば、その一言でもう子供達の心の中には活々とした動機性が醸し出される。

箱は蜜柑箱でも石油箱でも釘樽でも何でもよい。澤山に集める。塗料は、今のところ凡ての點から考へて、まあカセインが無難であらうか。

この仕事の期待効果は、效果欄にある通り、第一はおほまかな力の仕事を主體とする共同製作言ふことである。動物一つ持ち運びするにも全身の力をこめなければならぬのもある位で、子供等の身體には大變にいゝと思ふ。丁度、箱積木を持つて遊ぶのと同じ様に思ふ。釘の打ちつけ、鋸の仕事、皆汗はむ程の力がある。第二には、動物愛護の精神涵養、次は社會的生活興味、木工、觀察等が擧げられる。

繼續作業時間は、九週間

この案の實施に當つては觀察用として動物繪本が常に子供達の左右にそなへられてなければならぬ。

今週の仕事は

小鳥の小屋

何か小さい箱を土臺としてそれに小鳥の小屋らしい屋根をつけてもよいし、又こんな小形のものゝは初めから板で組み合せても容易に出来る。入口を可愛いらしいのに作る。

小鳥の巢

藁等で巢らしく作る。

小鳥

少し分厚の板に小鳥の繪を子供の手で描いて貰ひ、之を鋸ミシンで切つてやつて色を塗らせる。

小鳥の卵

粘土で丸く作り、乾いたら白のエナメル又はカセイン等で塗る。

第二週

兎

小箱を胴に利用する。耳のついてる頭部を、やはり分厚の板に描いて貰つて、大人が之を鋸ミシンで切つてやる。少し太目の棒を頸にして、之にこの頭部をつけ、之を前の小箱の胴體に打ちつける。足は、板に兎の足の繪を描き、切り抜いて、胴體につける。白のカセインで塗る。目や耳のすじ等を赤くする。

小豚

胴體に蜜柑箱利用、顔を前の兎の時の様にして分厚の板に描き、鋸ミシンで切り抜き、棒の頸につける。之を胴體につける。全體を眞白でなく少し桃色味を帯びた色に塗る。

これには、足を割に細く、尻尾は細く、くりつミ巻いたも

のをつける感じがよく出る。足は箱の奥の方からつける。さしつかりして丈夫である。

小山羊

サイダー箱を利用。頭も前同様にして造る。全體を白く塗る。

第三週

猿

板に猿の全體の姿を描いて切り抜いてもよし、又小箱に前の様に頭部をつけてもよし。猿らしく、全體を茶色に、顔を赤く、色を塗る。

猿の止り木(枯木利用)

大ぶりの枯木を探して來た。シーズンから言へば、之はこのまゝ土臺の方を立つ様に工風して猿の止り木としていいわけであるが、それでもあまり藝が無いと云ふので、全體の知れない常緑樹にしてしまつて、葉をつけたり、實をつけたりした事であつた。

猿の腰掛け臺

止り木の何處かに、猿の腰掛臺をつくつて、こゝに猿を

置く。

稿馬

林檎箱利用、頭部は前と同様にしてつける。全體を白く

塗り、後乾いたら墨で縞をつける。

唱歌遊戯

第一週

唱歌 三回

兵隊(びやうたい) (童謡唱歌名曲全集)

歌詞が三番まであつて、少し複雑で六ヶ敷い様にも思はれるが、この歌は既にレコードでおなじみになつてゐるので、割合に取扱ひ易い。

遊戯 二回

今までに習つたものゝおさらび。

第二週

唱歌 二回

押しくらまんじゆう(佐々木すぐる曲集)

元氣よく歌ふ事。最初の音が高いので、少し聲が出しに

くいかみ思つたが、全體の調子がよいので、子供たちは喜んで歌ふ。

遊戯 三回

押しくらまんじゆう(土川五郎氏振)

きびくした動作で、大變氣持がよい。男の兒は殊に喜ぶ。この遊戯をする時は、意氣地無しは一人もゐなくなつて、大變な元氣を出すのも面白いことだ。

足ぶみ(記事参照)

手拍子、足拍子はこうするのだ云ふ一定の型を教へないで、リーダーになつた子供たちにそれく工夫させる所に面白味があり、又それを真似してみんながする所にも興味がある。順々にお友達を呼んで行つて、みんなで楽しみながら続ける事が出来る。

第三週

唱歌 二回

お菓子の子の汽車(童謡唱歌名曲全集)

さても可愛い歌。

遊戯 三回

じゃんけん陣まり(ゲーム遊戯)

寒い時にはゲーム遊びをするに限る。

この方法は、二組に分けて(例へば赤白それごとく一人が入れるだけの丸い陣を描き、赤組の陣と白組の陣とを結ぶ線を引く。兩組は陣を前にして列ぶ。用意ドンで各組から一人づゝ線の上を駆け出して来て、二人が出會つた所でジャンケンをする。勝つた方はそのままさんく進む。負けた者は其の場からさいて、時を移さず次の者が初めの陣から出發して、先きに勝つて馳けて来た者に出會ふ様にする。こう云ふ様にして、ジャンケンに勝つて、線上を前進し、敵の陣に入れば勝ちになる。味方がジャンケンに負ければ、すぐに次が出なければならぬので、ぼんやりしてはゐられない。なか／＼面白く遊ぶ事が出

来る。

第四週

唱歌 二回

コケッコー(をさなごのうた)

遊戯 二回

コケッコー(土川五郎氏振)

寶さがし(記事参照)

このゲーム遊戯も大變面白く出来る。この様な遊びは前から行はれてゐるが、リズムに合せて動作をする所に一層興味が加はる。

足ぶみ

戸倉ハル氏振付
ザソングケアプリーブック

準備 圓形を作りリーダーを一人きめ、圓の中に入る。

第一小節より第二小節まで

全生圓の中心をむき立つてゐる。そしてリーダーの動作を注意してみてゐるリーダーは曲に合はせて足ぶみをす。この足ぶみをリーダーの考案により、ゆつくり回数をおまなくしてもよいし、又早くして同じ曲の間に數多く

してもよいし、又早いのおそいのを交せてもよい、自分の勝手にして圓周上のものにまねさせるのである。

第三小節より第四小節まで

圓周上の者がリーダーの行つた通りの足ぶみを行ふ、リーダーはそのまゝ圓の中にある。

第五小節より第六小節まで

第一小節より第二小節までの動作と同じ。

第七小節より第八小節まで

第三小節より第四小節までの動作と同じ。

第九小節よりをばりまで

リーダーは圓周上の一人を指名し(スキップでその人の所に行き軽く肩をたたくことによる)指名された者を手をつなぎスキップで圓の内をまひまはる。

次に行ふ時には圓の内に入る者が二人となり、第三回目には四人となる。こうして次第に圓の内の者がふえて行くがリーダーは一人である。數回くりかへして行ふ。

コケッコー をさなこのうた

準備 一列圓形を作り内方を向く。

コケッコッコー

兩手を左右にあげ、にはりが羽をひろげた様に手首の所から先を下にまげる、と同時に踵をあげる。すぐ手も踵も元に戻す。

間奏

一四呼間休止。

ニハトリナイタ

兩手を大きく左右から口のところに持つて来る。

ヨガアケタ

拍手一回するのミ一しよに兩膝をそろへて曲げる。次に直ちに膝をのばし手は羽の如く左右にあげ先を手首のミころから上にむけて曲げるミ同時に一歩前に出て兩足を揃へる。

チチャノ

左右にあげた手を軽く握り腰のミころにあてる。

クルマガ

今まで圓心に向いてゐたがこゝで圓周に沿つて右向けをする、手は腰にあてたまゝで。

ガァラガラ

圓周に沿つて四歩車をひいて歩く。

マドカラオヒサマ

圓心をむき止り。兩手を左右から大きくあげ頭上で大きいお日様を作る。

キラキラ

體は圓心に向いたまゝ横歩きに左へ四歩あるく。兩手はお日様を作つてゐたのを歩くのミ一しよにお日様をさいて今度はキラキラ五指を動かしながら兩手一しよに右斜上から左斜下におろす。

間奏

圓心に向いてその場で右足をあげ左足でミぶミ同時に兩手を人さし指だけ開き右斜上にあげる次に左足をあげ右足でミぶのミ同時に左斜上に手をあげる。次に拍手三回行ふ。

オニハニスズメガ

全生手をつなぎ中心に向つて四歩すゝむ。

トンデキタ

手をはなし左右に羽の如く兩手を動かしながら四歩さがる。

チュウチュウ

左足を爪先だけを床につけて軽く一步後にひくミ同時に兩手は口の所にひらき體は斜左横にむく。

ナクノハ

今度は右足を軽く一步後にひき體は斜右横にむけるミ同時に兩手は口にひらく。即ち前ミ同じ動作を右に行ふのである。

コスズメカ

兩手を羽の如く動かしながら横歩きにすりあしの早足で右へ二歩あるくそして最後にしやがみ兩手を胸に組む。

ドコカラチュウチュウ

ナイテキタ

直ちに立つてチュウチュウナクノハコスズメカミ同じ動作をくりかへす。

間奏

手を腰に足ぶみ四回。の後拍手四回

コケッコッコ

はじめのコケッコッコと同じ。

寶さがし

全生圓形に座り鬼が一人圓の内に入る。豫め用意してある小石やおはじきの様なものを曲に合せはて隣から隣へ

談話

第一週

暦の話

まづ手近く、「今日」の暦の話から始める。

「今日は一月の何日でせうね」

なき、聞いて見る。この頃になるに、ボールドのはしなさに今日の日を、一月十日さか、或は洋数字で書いておいたりするので、大ていは答へられる。昨日は、明日はさつづいてきいて見たりもする。

曜日と同じく、

「今日は何曜日かしら」

渡して行く。全生が休みなくいつも手を動かしておらねばならない。鬼は小石の行く先をよくみてゐる。最後の曲の終りで皆手を握り下向けにして兩手を前にのばす。鬼は誰の手の中に小石があるかを當てる。當らない時は一度鬼をする。當つた時は當てられた者が鬼になる。

さきいて見るに、案外はよく知つてゐる。土曜日曜がある爲に曜日の方は覚え易い。それから一月、二月、三月、四月さ、先生も一緒にこなへて見る。かうした事を、今日一度したら間を置くさいふ事なく、二三日は毎日くり返す。又しばらくしてから又二三日つゞけて、さいふ方法をさる。

第二週

世界各國の旗

年少組の時には、日の丸のはただけにしておいた。年長組にもなれば、各國に夫れ々の旗のあるこま、この國の

はどれ位二三は知らせるのもよし。それにはたゞ單に模造紙で作つて、衝立に貼つておいてもいゝが、誘導保育案の主題によつては、たやすく是れを取り入れられるものがある。例へば運動會、園遊會などの裝飾用に。夏ならば各國の船を浮べて、それに掲げていゝ。

「世界中の海が」(吟誦)

せかい中の海が、みんな集つて、一つの海になつてしまつたら、みんな大きな海になるでせう。

せかい中の木が、みんな集つて、一つの木になつてしまつたら、みんな大きな木になるでせう。

せかい中の斧が、みんな集つて、一つの斧になつてしまつたら、みんな大きな斧になるでせう。

せかい中の人が、みんな集つて、一人の人になつてしま

観 察

第一週

六八

つたら、みんな大きな人になるでせう。
大きな人が、大きな斧で、大きな木をきつて、大きな海へ、づしん、ざさりきたふしたら、みんな大きな音がするでせう。

これはいろいろに譯されてゐるが、この譯し方が一番子供には覚え易く、意味もわかり易いと思ひ、これを用ひてゐる。

第三週

六勇士

六人の勇士が、夫れづづ思ひきつた行動で活躍するのは、殊に大きい組の子供には我が意を得たようなうれさで興味を持つ。これも原作はもつゝ複雑で、一人の行爲がなかく長いし、混み入つてゐるのを、それでは、六人の一人づゝの行爲がはつきりしないので、わかり易く改作したところもある。

カレンダー

年少組参照、但し年長組であるから銘々に工夫させて作らせる様に種々觀察の範圍をひろめ誘導しやう。そして一週間は七日、一ヶ月は三十日と三十一日とあること、二月は二十八日である事もみ出させやう。

動物寫真

動物園をつくる豫備の觀察。動物園に行けたらそれが一番いゝ。その代りであるから動物の繪でも寫真でも、動物の生活をかいたものであり度い。話合ひ乍ら、けもの、鳥、爬虫類、魚等の種類をわけて注意し、それ等の差を言はせるのもよい。

雪

雪がふつた朝、さら／＼のものを蟲めがねでのぞかせ、雪の、花のやうな形をみせやう。

第二週

手
技

世界各國の國旗、土人の風俗畫

動物をつくつてゐる種々な日本にはゐないのが出て來、他國の地名が出てくる。そこでまだ地圖は觀念としてむづかしいからただいろ／＼なお國があること、その國々の風俗、國旗なごを、かいた繪や寫真をみ乍ら話し合ふのも、もう小學校へ行く子ども達にはよいことであらう。

第三週

霜柱、水仙(年少組参照)

水仙は葉、莖(地下、地上)根の部分も觀察させやう。

第四週

冬の芽(年少組参照)

ふくじ草

冬咲くつよい花にして、この可愛いらしい花をお部屋に置いて観るのもよいことであらう。詳しくみることはない。

第一週

自由畫 動物 二回

ハトロン紙の大判に毛筆で幼児の自由に動物を畫かせる。

製作 小鳥の小屋、巢、玉子

誘導保育案による動物園をつくる。先づ小鳥の小屋、

巢、玉子をつくる。

粘土 小鳥ミ卵 二回

數人の幼児、或は全部の幼児につくらせてもよい。

第二週

自由畫 二回

動物畫を見る。次の時には幼児に自由に畫かせる。

粘土 自在 一回

ぬりゑ ツバキ 一回

製作 四回

兎、小豚、小山羊

みかん箱なぎの様な小さな木箱を利用して顔だけ別の木でつくつてつける。ベニヤ板なぎの板の上にクレオンで

動物の畫をかゝせてそれをミシンノコギリで切る。

第三週

自由畫 動物 二回

自由畫で各自の帳面に動物をかゝせる。

缺仕事 水仙 一回

水仙の花を花瓶に挿して各自に觀察させてそれを切り紙

ミする。これは年少組の材料にもあるが年長組は年長組

ミして數も多く、作り方も細くする事になる。

粘土 動物 一回

大きな動物を各自がつくるわけにも行かないので、一方

では誘導保育案で動物の大きなものをつくつてゐる。そ

の傍これをしてしないものだけに粘土の動物をつくる事にす

る。

製作 四回

猿

木の葉

縞馬

猿は平面の板の上に全身をかいて、それをミシン鋸で切

る。

猿の登る木の枝は庭の立木の一部を切つて使ふこよい。
葉は緑の模造紙を切りぬいて表裏一枚の間に針金を入れて葉柄にしておく。

縞馬

石油箱位の大きさの木の空箱を胴として、普通の角棒か丸太棒で四つ足をつけて體全體を黄色にぬつて、乾いた後で墨で縞をかゝせる。

第四週

自由畫 着物の模様

お人形の着物の模様

ぬりゑ モヤウ 一回

製作

節分のお面

お三寶

親豚、親山羊、柵

動物園のくりの間に節分の行事を入れて製作する。

鬼のお面、お三寶なき畫用紙でつくつて豆まきの支度を

する。

親豚

親豚は釘樽なきの空樽がよい。これに頭と足をつける事はこれ迄の動物と同じである。

親山羊

親山羊は石油箱位の大きさの胴が丁度よい。これに頭と足をつける事は前と同じ。

柵

動物の大きに従つて高くつくり或は低くつくる。
動物や柵なきの色ぬりは同じ時に塗つた方がよいのでかためてぬる。

もの思ふこ過ぐる月日も知らぬまに

今年もけふに果てぬこかきく

(後撰和歌集より)

○

皆様よいお年をお迎への程 祈り上げます。

(編輯部)

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一同總會ヲ開ク。

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)
 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	送金拾五錢	特等面一頁	二等面一頁
半年分	送金貳圓拾錢	金貳拾圓	金拾圓
一年分	送金四圓拾錢	金拾五圓	金拾圓
拾貳冊送金	四圓拾錢	廣田區駿河臺ノ三品田	廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和十一年十二月十三日印刷納本
 昭和十一年十二月十五日發行

幼兒の教育 第三十六卷 第十二號

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 編輯者 倉橋惣三
 發行者 柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山則常
 東京市本郷區駒込林町百七十二番地

不許複製 禁止轉載

發行所

東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
 日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合には繰て一割増)
 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用のの方は往復はがきで御申越を願ひます
 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます
 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます

本誌總目錄

一月號

卷頭(正月)

明治維新前後に於ける我邦兒童教育の狀況

倉橋惣三……一

子供の繪(其三)

乙竹岩造……二

幼兒の宗教教育

菅原教造……三

幼兒をよき環境に翹はしめよ

霜田靜志……四

兒童心理學文獻抄(十四)(言語の發達)

砥上種樹……五

幼年踏切(一)

牛島義友……三

素人に出来る木工の話(三)

武田雪夫……五

お角力あそび

山形寛……六

及川ふみ……七

二月號

倉橋惣三……一

卷頭(二月)

堀七藏……二

北支那の見聞

多田鐵雄……五

アメリカの就學前幼兒の教育

菅原教造……二

子供の繪(其四)

牛島義友……三

兒童心理學文獻抄(一五)(幼兒の唱歌)

山田德兵衛……三

難祭と御馳走

三月號

卷頭(三月)

子供の繪(其五)

保育・教育連結の一實驗

倉橋惣三……一

兒童心理學文獻抄(十六)(積木と粘土細工)

菅原教造……二

幼稚園の修了式入園式

白根孝之……三

系統的保育案の實際解説

牛島義友……五

生活訓練

倉橋惣三……五

誘導保育

菊池ふじの……五

唱歌遊戲

村上露子……三

談話

新庄よしこ……六

觀察

小島光子……六

手技

及川ふみ……七

四月號

卷頭(四月)

保育事項に就て

倉橋惣三……一

二つの幼稚園

和田實……二

谷口明三……七

幼兒の放送

「おもちゃ箱」

おひな様

全國保育大會狀況

F O……五
村上露子……七
及川ふみ……三
……六

三月號

卷頭(三月)

倉橋惣三……一

子供の繪(其五)

菅原教造……二

保育・教育連結の一實驗

白根孝之……三

兒童心理學文獻抄(十六)(積木と粘土細工)

牛島義友……五

幼稚園の修了式入園式

……五

系統的保育案の實際解説

……五

生活訓練

倉橋惣三……五

誘導保育

菊池ふじの……五

唱歌遊戲

村上露子……三

談話

新庄よしこ……六

觀察

小島光子……六

手技

及川ふみ……七

四月號

倉橋惣三……一

卷頭(四月)

和田實……二

保育事項に就て

……二

二つの幼稚園

谷口明三……七

倉橋惣三……一

和田實……二

谷口明三……七

園児の胸廓について

手紙

兒童心理學文獻抄(十七)(童話)

系統的保育案の實際解説(筆者同前號)

五月號

卷頭(五月)

父母と保姆との協力

保育の第一歩

兒童心理學文獻抄(十八)(子供の人物畫)

入選童話

子どものお辨當

心を開かせること

系統的保育案の實際解説(筆者同前號)

六月號

卷頭(六月)

都市の幼兒教育に對する希望

夏期の幼兒衛生

氣質に關する一二の問題

桃太郎の變遷

新入園児を迎へた當時を反省して

「母のお話」

麴町幼稚園……………三

新庄よしこ……………三

牛島義友……………四

……………元

倉橋惣三……………一

森川正雄……………二

山下徳治……………四

牛島義友……………二〇

……………二五

……………元

倉橋惣三……………三

……………元

倉橋惣三……………一

田島眞治……………二

井口乘海……………九

古川竹二……………七

小池藤五郎……………六

坂内ミツ……………三

岸田秋……………六

遊び場に於ける子供の氣持

夏の食堂

雜錄

系統的保育案の實際解説(筆者同前號)

七月號

卷頭(七月)

幼兒の社會性陶冶の問題

「舌切雀」の展開(一)

日本産小淡水魚の觀賞とその飼ひ方

兒童心理學文獻抄(十九)(兒童畫の問題)

童石屋さん

遊びの場に於ける子供の氣持(承前)

系統的保育案の實際解説(筆者同前號)

九月號

卷頭(九月)

まことこころ

舌切雀の展開(二)

歐米幼兒教育視察記(一)

旅を考へる

兒童心理學文獻抄(二十)(反抗の心理)

なた豆

西田希雄……………四

留岡よし子……………四

……………七

倉橋惣三……………一

白根孝之……………二

小池藤五郎……………二〇

清水良雄……………七

牛島義友……………三

山本ゆき子……………六

西田希雄……………六

……………四

倉橋惣三……………一

曾根保……………二

小池藤五郎……………六

高市慶雄……………二

菅原敬造……………三

牛島義友……………五

……………六

系統的保育案の實際解説(筆者同前號)……………六
 保育案……………九

十月號

卷頭(十月)……………一
 子供の放送について……………二
 舌切雀の展開(三)……………二
 歐米幼兒教育視察記(二)……………二
 歐米心理學文獻抄(二十一)(幼兒の性格の觀察)……………二
 系統的保育案の實際解説(筆者同前號)……………三
 子供の繪に就いて……………三
 倉橋惣三……………九
 小尾範治……………二
 小池藤五郎……………二
 高市慶雄……………七
 牛島義友……………二
 山形寛……………三

十一月號

卷頭(十一月)……………一
 皇太后陛下の行啓を仰ぎ奉りて……………二
 感想……………二
 歐米幼兒教育視察記(三)……………二
 英詩のリズム……………二
 兒童心理學文獻抄(二十二)(子供の社會生活)……………二
 觀察話を終へて……………三
 系統的保育案の實際解説(八)(筆者同前號)……………三
 倉橋惣三……………一
 倉橋惣三……………二
 下田たづ……………八
 高市慶雄……………二
 曾根保……………六
 牛島義友……………三
 山村きよ……………三

幼兒の體育

十二月號

卷頭(十二月)……………一
 聾啞幼稚園……………二
 歐米幼兒教育視察記……………二
 英詩のリズム……………二
 兒童心理學文獻抄(二十三)……………二
 子どもを歌つた大隈言道……………二
 對仲直り……………二
 系統的保育案の實際解説(筆者同前號)……………三
 總目錄……………三
 倉橋惣三……………一
 樋口長市……………二
 高市慶雄……………二
 曾根保……………五
 牛島義友……………三
 三津迪……………三
 曾根翠……………三
 佐々木等……………五

以上

本年度保育實習科卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十二年三月左の二十四名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心とその職に従事し度い希望にもえてゐます。御採用を願ひます。

氏名	出身學校	生年月日	氏名	出身學校	生年月日
池端ミヅ子	熊本市立高女	大正八年二月三日	竹中 澤子	東京櫻陰高女	大正七年九月二日
小丸 ユリ	福島縣立相馬高女	大正七年九月二十九日	土子 松枝	東京女高師附屬高女	大正七年六月三十日
大瀧 朋子	茨城縣立下館高女	大正八年三月二十五日	馬場 啓子	群馬縣立前橋高女	大正九年三月十四日
菅野ミチ子	東京女高師附屬高女	大正八年二月一日	日高 テイ	大連神明高女	大正七年十月十六日
岸 友子	福島縣立福島高女	大正九年二月二十四日	福圓 薰子	東京女高師附屬高女	大正七年十一月十二日
酒井 緑	和歌山縣立和歌山高女	大正七年十二月三日	町田 行子	東京府立第三高女	大正八年三月六日
柴崎百合子	東京立正高女	大正七年十月七日	三浦 シヅ	東京櫻陰高女	大正七年八月二十二日
下田 八重	東京府立第六高女	大正八年一月二十日	宮田 國子	大分縣立中津高女	大正七年一月三日
諏訪 春子	東京櫻陰高女	大正八年三月十二日	山口 百代	千葉縣立千葉高女	大正七年五月二十七日
田谷 ヨシ	東京府立第三高女	大正八年一月十二日	山根 敏子	東京女高師附屬高女	大正七年七月十九日
高瀬 妙子	東京櫻陰高女	大正七年十二月二日	横瀬 末子	東京府立第五高女	大正八年一月七日
竹内 和子	福島縣立三原高女	大正七年七月二十八日	若山 美榮	福島女學院	大正八年一月五日

東京女高師教授
附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生序

聖美幼稚園長
内山憲堂先生著

菊判三五〇頁
定價二圓八十錢
送料十六錢

幼稚園の先生に なくてはならぬ 毎日の保育寶典

幼稚園の先生に
なくてはならぬ
毎日の保育寶典

次 目

- 一 幼兒と童話
- 二 童話とは
- 三 幼兒童話の教育的價値
- 四 幼兒童話の要素
- 五 韻律について
- 六 幼兒童話の組立
- 七 言葉と音聲
- 八 幼兒童話のゼス
- 九 チュアール選り方と改作する童話に於ける童話について
- 一〇 場所と座席話の方
- 一一 童話と朗讀
- 一二 例話 十篇

奈良女子高等師範
學校教諭兼教授

横井曹一先生著

四六判上製三百余頁
色繪其他插繪一六五圖
定價二圓八十錢
送料十五錢

最新手技資料と其扱法

【書備必園稚幼】

幼稚園内の
手技案

次 目

- 一 風船玉(ちり紙)
- 二 牧場(紙糊)
- 三 鷲(鳥)
- 四 玩具(中略)
- 五 風車(食用紙糊)
- 六 提灯向
- 七 望汽船向
- 八 クリスマスのおもて
- 九 飛行機(きり紙)
- 一〇 毛糸で描く顔(毛紙)
- 一一 動物の作方(粘土)
- 一二 活動人形(厚紙)
- 一三 動物(紙糊)
- 一四 糸巻人形(糸)
- 一五 器などり人形(糸)
- 一六 壁掛(糊)

東 京 東 阪 東 洋 圖 書 株 式 合 資 會 社 發 兌

東京市神田區保町一丁目 番七三〇一
大阪市南區安堂寺一丁目 番六五五九三

お子様の満悦100%の手技用品と表簿類

◇菱形——赤白草三色の菱餅を重ねたやうな厚紙蓋紙に、チリメン摺紙で難を折つて貼ります。
 菱形 五十枚 金一圓五十錢

縮緬 [大15cm×15cm 一〇〇枚包一把 金五十錢]
 摺紙 [小15cm×15cm 一〇〇枚包一把 金三十錢]

◇屏風形——雛祭り又はお人形遊び用、金屏風の華麗なもの、これに貼紙の機その他を以てお子様方に美事な意匠ができます。
 五十枚 金一圓五十錢

◇繪馬額——厚紙で作つた繪馬額、クレオン貼紙等でお子様御自身がいろ／＼意匠する大歓迎の手技用品。
 五十枚 金一圓

◇保育證書——厚い堅紙な上質紙に文字を墨、周圍輪廓を金刷、そして姓名年月日を書き入れるやうになつてゐます。御園名入のものは二月末日迄に御註文、無名ならば何枚にても即時お間に合ひます。

御園名入の保育證書
 二月末日迄
 に御註文下さいませ

一〇〇枚園名入 金四圓
 五〇枚園名入 金二圓五十錢

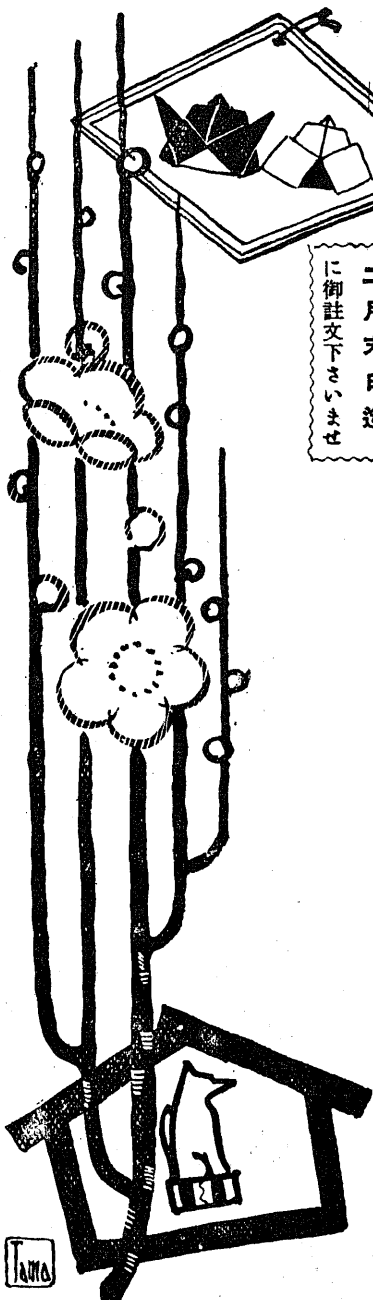
無名一枚 金五錢
 ◇出席簿用紙——一〇〇枚 全一圓

◇豫定案日誌——一冊(二年分) 金一圓二十錢

◇在籍簿用紙——一〇〇枚 金八十錢

◇月謝袋——一〇〇枚 金一圓四十錢

◇出席カード——(十二枚一組) 一人一ヶ月分 金十錢



株式會社 三井物産

本社 東京 神田 二丁目保神 (33) 電話 六六三二六番
 出張所 大阪 東區 後備五丁目 (34) 電話 一八九八番

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
 昭和十一年十二月十三日印刷納本
 昭和十一年十二月十五日發行

定價三十五錢